平成13年度版

こころの健康センター所報

三重県こころの健康センター
（精神保健福祉センター）

はじめに

皆様、平素より諸活動を通じ、三重県こころの健康センター事業に多大なるご協力を頂き心より感謝申し上げております。平成13年度の所報が完成しましたので、お届け申し上げます。

さて、平成13年度は、新規にスタートしましたこころのケアネットワークづくり事業、従来事業ともに皆様方の御支援をいただき順調に展開致しました。センター職員一同、感謝申し上げております。

本年度は、当センターにおいて特に重点的に取り組むべき課題が二点あると考えています。まず、第一点めは、新たなセンター業務としての法定業務の円滑な運営に関するものです。精神障害者の人権確保、地域生活支援の基礎となる業務と認識しております。第二点めは、メンタルヘルスケアのための活動を県内各関連機関と緊密な連携の元に展開してゆくことです。その推進のために県内保健福祉部（保健所）にも人員配置がなされました。運営要領における、「地域住民の精神的健康の保持増進」とも関連する業務であると考えます。二点いずれの業務も精神保健福祉センターの存在意義と整合性を有する重要な業務と考え、その他の事業ともども積極的に取り組んでゆきたいと考えております。

三重県におきましては「生活者起点の県政」を基本理念とした「三重のくにづくり宣言」に沿った行政改革が推進されています。そのための取り組みの一つとして、卓越した先進地を視察し、自所属の業務見直しを行うことが県内行政各機関で実施されています。当センターにおいて、その取り組みの中で見いだされたものの一つに、「関連機関との連携」があります。そして、それら県内各機関での人的資源の交流とそれに基づく専門的資質の向上の必要性も見いだされました。前述の二つの課題遂行においても、この「連携」のあり方が問われるものと考えられます。三重県内での諸活動を通じ連携のあり方を見つめ、合理的な構築を図りたいと考えています。

当センター事業展開を目指してゆくに際し、精神保健福祉に関わる皆様方の御教示を頂けますことを心よりお願い申し上げます。県域を越え、広く連携が築かれますことを祈念いたしております。今後とも、皆様の御厚誼、御支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成14年9月

三重県こころの健康センター

﨑山　忍

目　　次

はじめに

Ⅰ．こころの健康センター概要 …… 1
1．沿　革 …… 1
2．業　務 …… 1
3．施設の概要 …… 3
4．組織及び職員 …… 5

Ⅱ．こころの健康センターの活動 …… 7
1．企画・立案 …… 7
2．技術指導・技術援助 …… 9
(1) 保健福祉部（保健所）に対する技術指導・技術援助 …… 11
(2) 市町村に対する技術指導・技術援助 …… 12
(3) 福祉機関に対する技術指導・技術援助 …… 13
(4) 教育機関に対する技術指導・技術援助 …… 13
(5) 医療機関に対する技術指導・技術援助 …… 14
(6) 司法機関に対する技術指導・技術援助 …… 14
(7) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助 …… 15
(8) 精神保健福祉団体に対する技術指導・技術援助 …… 15
(9) 行政機関に対する技術指導・技術援助 …… 16
(10) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助 …… 16
3．教育研修 …… 17
(1) 精神保健福祉研修 …… 17
(2) 学生実習 …… 20
(3) 社会復帰指導者研修（デイケア） …… 21
4．普及啓発 …… 25
(1) 所報「平成12年度版こころの健康センター所報」の発行 …… 25
(2) 三重県こころの健康センターのパンフレットの作成 …… 25
(3) ホームページの更新 …… 25
(4) メンタルヘルス公開講座 …… 25

(5) 講演活動 …… 26
5．精神保健福祉相談 …… 33
(1) 精神保健福祉相談(こころの健康相談・こころのテレフォン相談)……33
(2) 思春期講座 …… 41
6．組織育成 …… 45
(1) 家族会・リーダー研修会 …… 45
(2) 精神保健ボランティアの育成 …… 46
(3) 思春期アドバイザー養成講座 …… 47
(4) 断酒会・アルコールネットワーク …… 48
7．精神障害者福祉推進事業 …… 49
(1) 精神障害者就労相談 …… 49
(2) 精神障害者自立援助 …… 51
(3) 社会復帰関連施設支援 …… 52
8．ストレス対策事業 …… 53
9．薬物相談ネットワーク事業 …… 55
10．こころのケアネットワークづくり事業 …… 57

III．資 料 編 …… 61

凡 例

統計表や一覧表において、次の通り略号を用いた。

D R…医師
PSW…精神科ソーシャルワーカー
PHN…保健婦
C P…心理技術者

Ⅰ．こころの健康センター概要

1．沿　　革

2．業　　務

3．施設の概要

4．組織及び職員

1．沿　革

（平成13年４月現在）

三重県こころの健康センター（精神保健福祉センター）は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第６条の規定に基づいて設けられた、地域精神保健福祉活動の技術的中枢機関である。

○昭和61年５月　三重県津庁舎津保健所棟１階（津市桜橋３丁目446－34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。

○昭和63年10月　三重県久居庁舎（久居市明神町2501－１）の完成に伴い、同１階に移転。

○平成元年４月　県健康対策課の地域機関として独立（三重県条例第五号）。

○平成11年４月　診療（投薬）開始（三重県条例第五号の一部改正）。

○平成11年８月　三重県久居庁舎４階にストレスケア・ルーム増設。

○平成13年７月　三重県津保健福祉部久居支所の廃止に伴い支所跡に事務所移転（久居庁舎内）。

○平成14年４月　ストレスケア・ルームを庁舎２階に移転。

2．業　務

当こころの健康センターは、「精神保健福祉センター運営要領」（健医発第57号厚生省公衆衛生局長通知、平成８年１月19日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

(1)　企画立案

地域精神保健福祉を推進するため、都道府県の精神保健福祉主管部局及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をする。

(2)　技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導及び技術援助を行う。

(3)　教育研修

保健所、市町村、福祉事務所、社会復帰施設その他の関係諸機関等で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の教育研修を行い、技術的水準の向上を図る。

(4)　普及啓発

都道府県規模で一般住民に対し精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。

(5)　調査研究

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加

の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、都道府県、保健所、市町村等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。

(6) 精神保健福祉相談

センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを行う。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期、痴呆等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施する。センターは、これらの事例についての相談指導を行うためには、総合的技術センターとしての立場から適切な対応を行うとともに、必要に応じて関係諸機関の協力を求めるものとする。

(7) 組織育成

地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織的活動が必要である。このため、センターは、家族会、患者会、社会復帰事業団体など都道府県単位の組織の育成に努めるとともに、保健所、市町村並びに地区単位での組織の活動に協力する。

平成11年4月より、以下の2事業が新たに加わった。

(8) ストレス対策事業

ストレスを避けて通れない現代社会において、すべてのライフサイクルを通じて、メンタルヘルスが重要課題となっている。一般住民の心の健康を維持向上させ、かつ適応障害などの境界域の心の病を持つ人々への社会的支援体制を確立するため、保健所と一体的な地域におけるメンタルヘルス支援体制をはかる。

(9) 薬物相談ネットワーク事業

こころの健康センターの薬物相談機能を充実し、それを中核とする薬物相談ネットワークを構築することにより、薬物相談に総合的に対応する体制を整備する。また、相談応需職員の研修を行う。

平成13年度よりの新規事業

(10) こころのケアネットワークづくり事業

三重県では健康づくり総合計画「ヘルシーピープルみえ・21」において、こころの健康づくりを重要事業と位置づけ、こころのケアに対する支援体制の整備を図っている。特に学校保健、産業保健でのこころの危機に関する関係諸機関のネットワークを構築し、必要なときに、早期に適切な支援ができる体制を整備する。

3．施設の概要

(1) 所在地

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津市桜橋3丁目446 －34　三重県津庁舎津保健所棟1階

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居市明神町2501－1　　三重県久居庁舎

(2) 施設の状況

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津庁舎津保健所棟1階　　1室　52.9m²

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居庁舎1階

ア　敷地面積（久居庁舎）　　11,617.29m²

イ　建物面積（本館棟）　　延床面積　5,484.50m²

ウ　建物構造（本館棟）　　鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建

エ　当センター占有面積　　723.0m²

オ　各室面積

事務室（電話相談室、所長室）	106.2m²	第1デイルーム	140.4m²
第1相談室（脳波、心理検査室）	30.8m²	第2デイルーム（和室）	44.8m²
第2相談室	23.9m²	陶芸室	11.3m²
第3相談室（診察室）	26.5m²	更衣室、湯沸室	12.0m²
第4相談室	23.9m²		
第5相談室	41.3m²		
図書資料室	37.0m²	各室面積　計	498.1m²

〔平成11年8月15日以降増設分〕

ストレスケアルーム

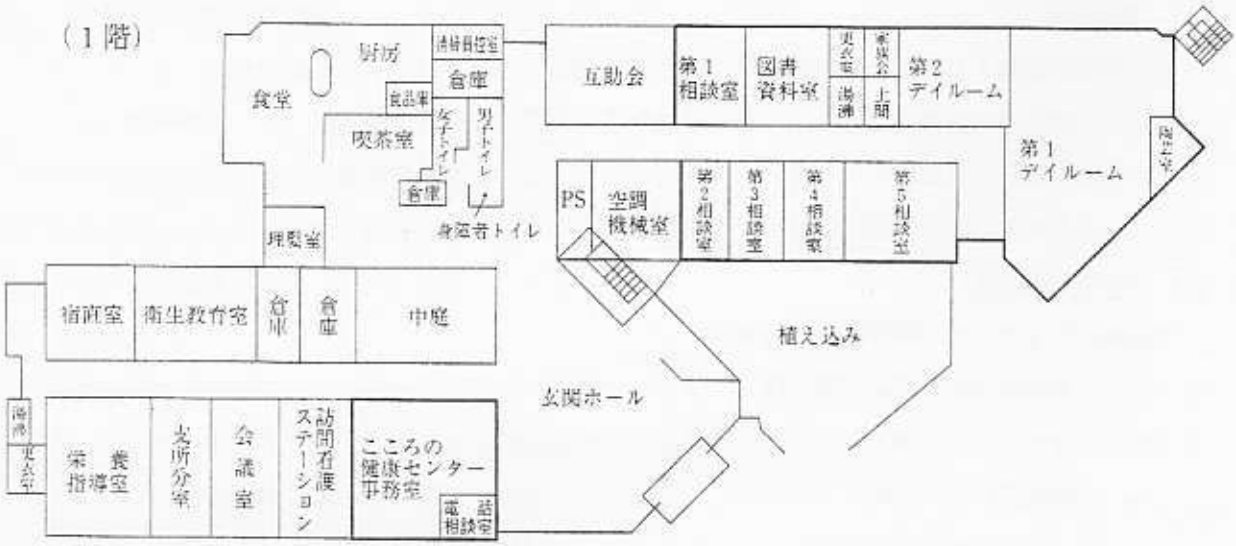
ケアルーム　1

ケアルーム　2

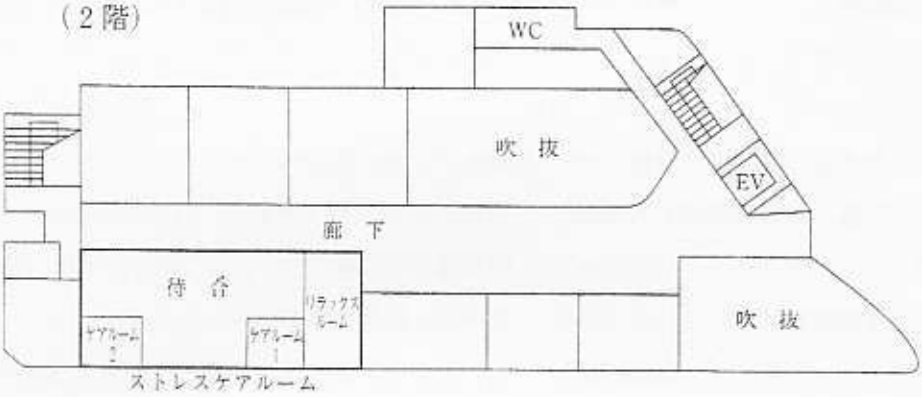
リラックスルーム　　各室面積　計 156.6m²

三重県こころの健康センター平面図（平成14年４月現在）

（１階）



（２階）



4．組織及び職員

（平成14年４月現在）

(1) 所掌事務

(2) 職員構成

（平成13年度）

職名	職種	氏名
所長（技術吏員）	医師	崎山 忍
副参事（技術吏員）	医師	松崎 まみ
主幹（事務吏員）	精神科ソーシャルワーカー	村木 顕太郎
主幹（技術吏員）	心理技術者	久保 早百合
主幹（技術吏員）	保健師	安保 明子
主査（技術吏員）	心理技術者	伊藤 裕通
主査（技術吏員）	保健師	花井 恵美子
主事（事務吏員）	一般事務	西山 幸子
技師（技術吏員）	保健師	西崎 水泉
電話相談員（嘱託）		2名
計		11名

（平成14年４月現在）

職名	職種	氏名
所長（技術吏員）	医師	崎山 忍
副参事（技術吏員）	医師	松崎 まみ
主幹（事務吏員）	精神科ソーシャルワーカー	村木 顕太郎
主幹（技術吏員）	心理技術者	久保 早百合
主幹（技術吏員）	保健師	安保 明子
主幹（事務吏員）	一般事務	長屋 由記枝
主査（技術吏員）	保健師	清田 早苗
主査（技術吏員）	保健師	花井 恵美子
主事（事務吏員）	一般事務	西山 幸子
電話相談員（嘱託）		2名
計		11名

II. こころの健康センターの活動

1. 企画・立案

2. 技術指導・技術援助

3. 教育研修

4. 普及啓発

5. 精神保健福祉相談

6. 組織育成

7. 精神障害者福祉推進事業

8. ストレス対策事業

9. 薬物相談ネットワーク事業

10. こころのケアネットワークづくり事業

1. 企　画・立　案

企画・立案

精神保健福祉法改正以来、平成11年度から、精神保健福祉担当者のワーキンググループを設置し、県下の保健福祉部の精神保健福祉業務の現状と課題、市町村の現状について、情報交換し、それに沿って市町村委譲の準備を進めてきた。

事業内容

1．地域研修

① 講演　参加者数　50名　日時　13年9月11日

「テーマ」　こころの健康を守り、育てる研修会

「講　師」　精神障害者共同作業所｛クッキング　ハウス｝　代表　松浦　幸子　氏

「開催地」　北勢ブロック　鈴鹿

② 講演　参加者数　60名　日時　13年11月20日

「テーマ」　精神障害者社会復帰施設の役割

「講　師」　こころの健康センター　所長　崎山　　忍　氏

「テーマ」　「街づくり、人づくり、暮らしづくり」

「講　師」　すずしろメンタルヘルスサービス（東京都練馬区）　川上　高弘　氏

報告　参加者数

「テーマ」　精神障害者社会復帰の現状

「報告者」　㈲北勢会　南川久美子（PSW ）

㈳四季の里　田中　宏幸（PSW ）

鈴鹿厚生病院　三谷美耶子（PSW ）

「開催地」北勢ブロック　桑名

③ 講義　参加者数　55名　日時　14年2月23日

「テーマ」　菰野町におけるホームヘルプ活動の実際

「講　師」　菰野町社会福祉協議会　蔵重　妙子　氏

「テーマ」　精神障害者に対する施策

「講　師」　紀北保健福祉部　中島　博子　氏

「テーマ」　精神障害者の対応の仕方

「講　師」　紀南保健福祉部　岩崎　　史　氏

「テーマ」　精神障害者に対する基礎知識

「講　師」　こころの健康センター　所長　崎山　　忍　氏

2．地域精神保健福祉マニュアル作成

市町村の相談窓口で役立ててもらうためマニュアルを作成した。

地域精神保健福祉マニュアル策定のための会議開催　4 回

地域精神保健福祉マニュアル作成・配布　500 部

2. 技術指導・技術援助

(1) 保健福祉部（保健所）に対する技術指導・技術援助

(2) 市町村に対する技術指導・技術援助

(3) 福祉機関に対する技術指導・技術援助

(4) 教育機関に対する技術指導・技術援助

(5) 医療機関に対する技術指導・技術援助

(6) 司法機関に対する技術指導・技術援助

(7) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助

(8) 各種精神保健福祉団体に対する技術指導・技術援助

(9) 行政機関に対する技術指導・技術援助

(10) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助

技術指導・技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するため、関係機関に対して、専門的立場から情報提供、講師派遣、コンサルテーション等を行っている。

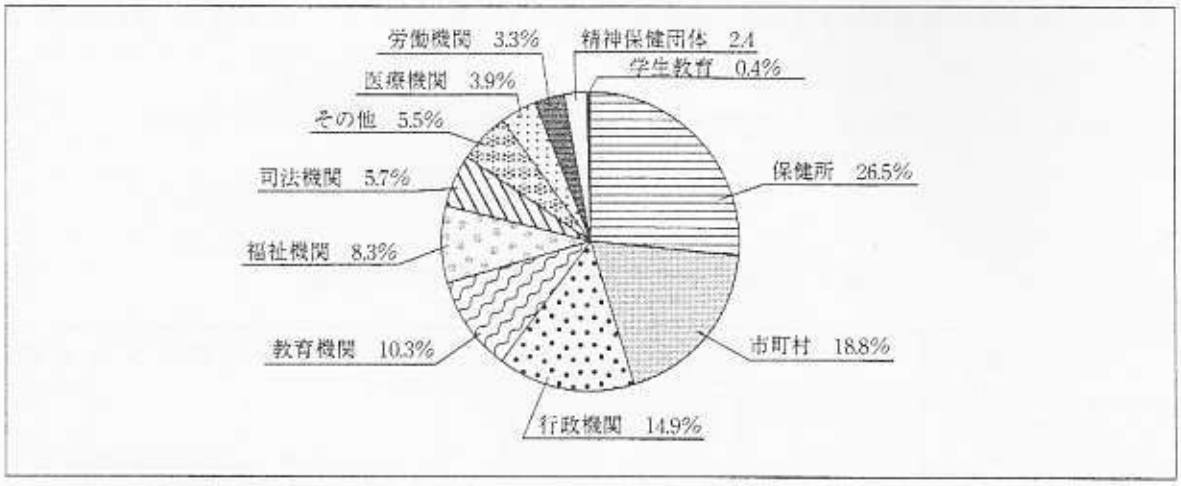
平成13年度における関係機関への技術指導・技術援助の実績は表１に示すとおりである。

表１　平成13年度　関係機関への技術指導援助

関係機関	実施回数	参加人数	技術指導援助内容											職種別指導援助回数							
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会研究会	連絡調整	委員会会議	行政実施指導	調査研究	その他	DR(A)	DR(B)	PSW	CP(A)	PHN(A)	PHN(B)	PHN(C)	CP(B)
	回	人	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回
保健所	121	970	12	41	19	10	5	24	1	6			3	10	13	6	25	55	9	9	6
福祉機関	38	996		12	9			13	1	2			1	3	2		19	9	5	1	
医療機関	18	18		12	5								1				14	2		1	1
行政機関	68	807	2	29	5			7	5	8	10	1	1	11	14	7	13	21	1	1	
教育機関	47	126		17	14	4		5	3	2			2	7		2	32	5		2	1
市町村	86	737	7	23	13	5		26	4	3			5	4	9	15	20	27	6	3	3
労働機関	15	399		5				9	1					4		4	3	4			
司法機関	26	136		4	14			6		2				1	1		22	2		1	
精神保健団体	11	35		6	1				1	3				3			3	2	3		
学生教育実習	2	6									2				1		1				
その他	25	48	1	17				2	1				4	2		4	8	8	3	2	
計	457	4,278	22	166	80	19	5	92	17	26	12	1	17	45	40	38	160	135	27	20	11

関係機関別にみた実施割合は、図１に示すとおりで、例年と同様保健所への技術指導援助が１位で、全体の26.5%を占める。２番目が市町村、３番目は行政機関の順である。

図１　平成13年度関係機関別技術指導・技術援助割合



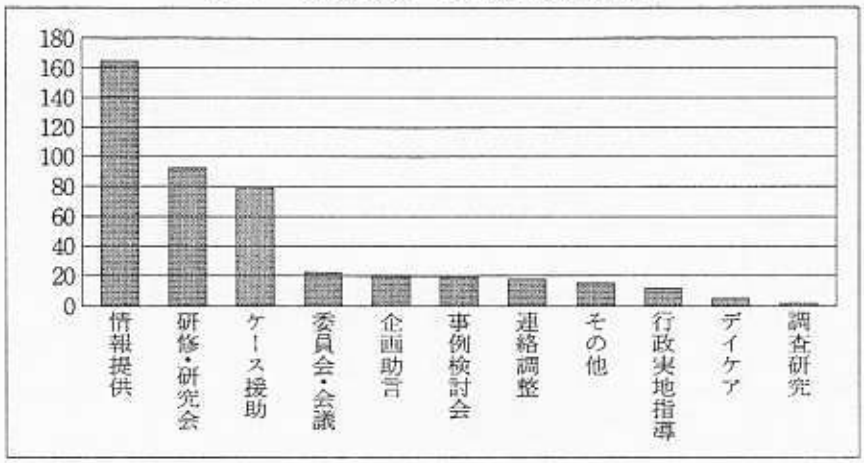
経年的に関係機関への技術指導・技術援助を見ると表２のとおりである。

表２　関係機関への技術指導援助実績（年度別）

区分＼年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
保健所	203	119	270	345	242	224	150	156	121
行政	113	72	103	129	164	167	131	99	68
市町村	21	32	37	51	71	83	79	86	86
医療	107	46	60	49	36	46	57	38	18
福祉	67	43	31	63	43	57	54	58	38
教育	69	80	106	148	151	170	127	102	47
労働	38	10	22	7	5	18	13	15	15
司法	2	0	2	3	4	24	26	43	26
各種精神保健団体	23	22	31	20	55	32	41	21	11
学生教育・実習	31	22	9	5	7	8	9	15	2
その他	22	4	30	45	53	67	75	80	25
合計	696	530	701	765	831	896	762	713	457

技術指導・技術援助の内容は図２に示すようになっている。

図２　平成13年度　技術指導援助内容



例年に比べ、情報提供の占める割合が高くなったのは、居宅生活支援事業の市町村移管が間近になり、市町村の体制整備に向けた内容が増加したためである。

(1)　保健福祉部（保健所）に対する技術指導・技術援助

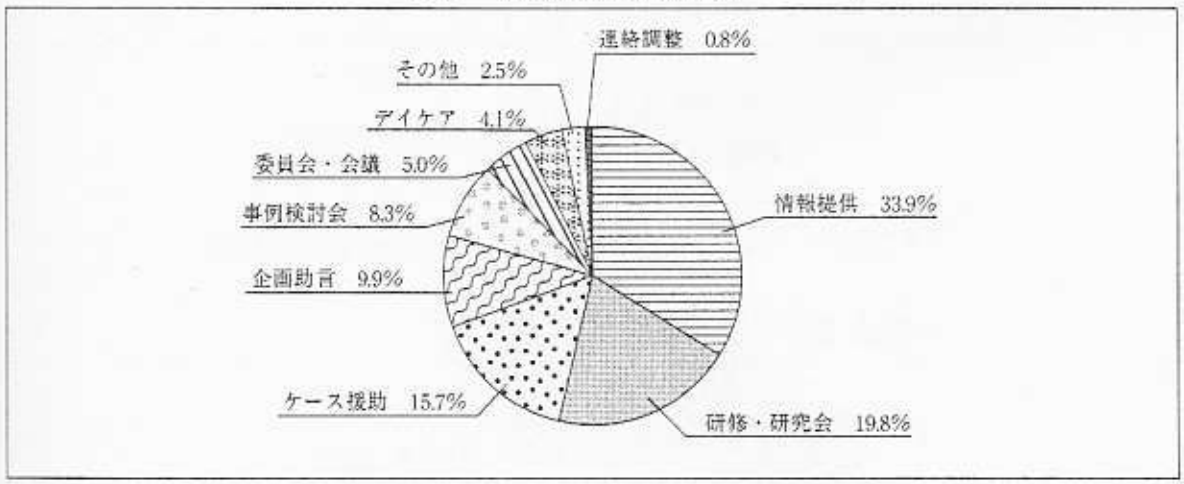
地域の精神保健活動の第一線を担う保健所の技術指導援助は当センター開設以来、重点的に進めているもので、数年来、センターの技術援助全体の約20％を占めている。

その内容は図３に示すとおりである。

通年、ケース援助の占める割合が最も高い現状であるが、今年度は、情報提供、研修・研究会の占める割合が高くなっている。

情報提供、研修・研究の内容は、いずれも精神障害者福祉サービスの市町村実施に関わる内容の増加である。

図３　保健福祉部（保健所）



保健福祉部別の技術指導・技術援助実施状況は、表３に示すとおりである。

表３　平成13年度　保健福祉部技術指導援助実施状況

保健所 保健福祉部	実施回数（回）	参加人数（人）	技術指導援助内容（回）										
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会研究会	連絡調整	委員会会議	行政実施指導	調査研究	その他
桑名	6	7	2	1	2			1					
四日市	9	99	1	2	1		1	4					
鈴鹿	15	173	2	7		2		3		1			
津	15	132		4	1	3	3		1	3			
松阪	6	21		4		1	1						
南勢志摩	38	265	6	12	8	2		4		1			
伊賀	13	113		5	2	1		5					
紀北	7	65	1	3				2		1			
紀南	11	57	3	5	1		2						
ブロック	3	38		1									
合計	121	970	12	42	19	10	5	24	1	6			3

(2)　市町村に対する技術指導・技術援助

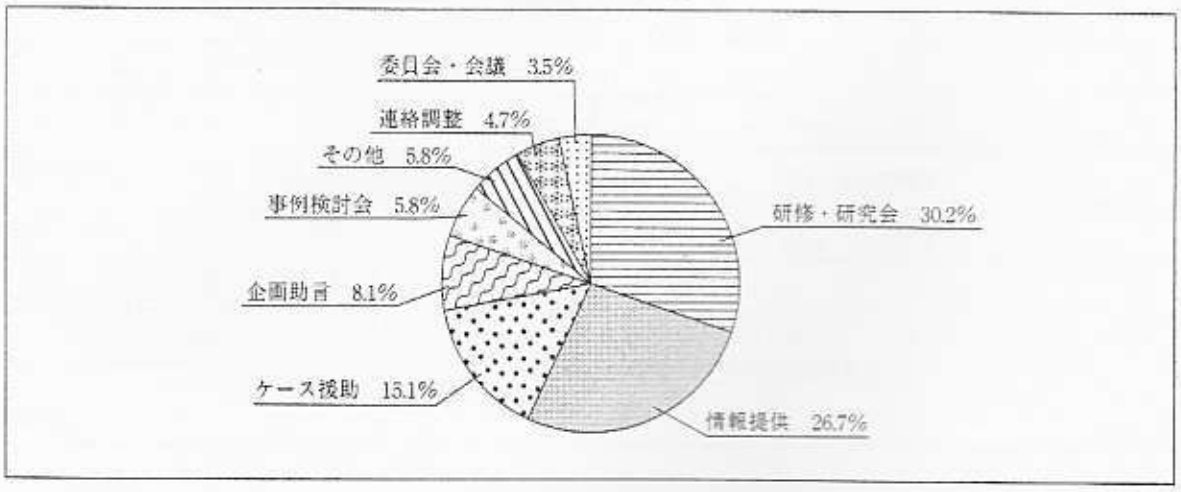
市町村に対する技術指導・技術援助は平成８年度以降、年々増加している。

技術指導・技術援助全体に占める割合は、保健所に次いで、２番目で、昨年度6.2ポイント上回っている。

その内容は、１．研修・研究会「精神疾患の理解、こころの健康に関すること（職員のメンタルヘルス・ストレスマネジメント等」、２．情報提供「精神障害者の地域ケアに関すること、こころの健康啓発に関すること等」である。

全体に占める割合は図４のとおりである。

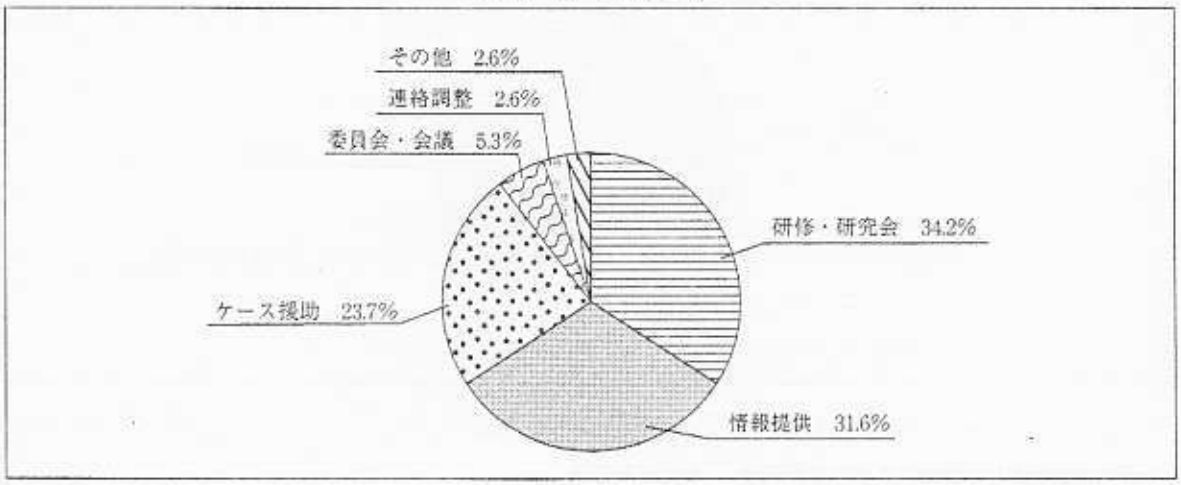
図４　市町村



(3) 福祉機関に対する技術指導・技術援助

技術指導・技術援助を実施した福祉機関は、社会福祉協議会、社会福祉施設、福祉事務所、老人保健施設児童福祉施設等で、主な内容は、1．研修・研究会、2．情報提供、3．ケース援助である。研修・研究会は、平成14年度から開始される居宅生活支援事業に係る研修への講師派遣、ケース援助は、痴呆性疾患、鬱病、分裂病、PTSD等のケースの医学的コンサルテーションである。

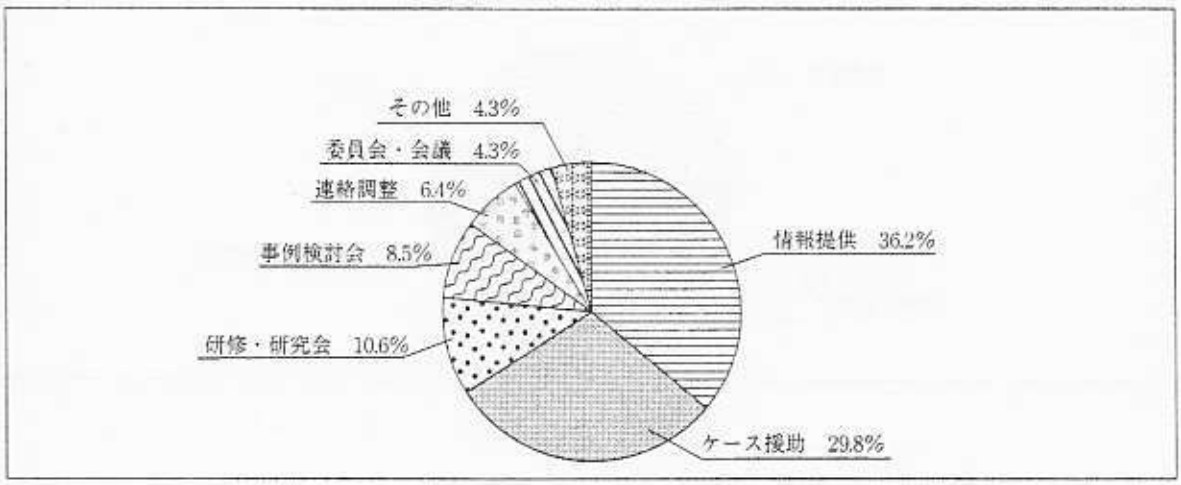
図5　福 祉 機 関



(4) 教育機関に対する技術指導・技術援助

主な内容は、1．情報提供（社会資源の紹介＝薬物依存、ひきこもり、PTSD）、2．ケース援助（不登校、PTSD等事例検討会への職員派遣）、3．研修、研究会（教員研修、PTAへの講師派遣）である。

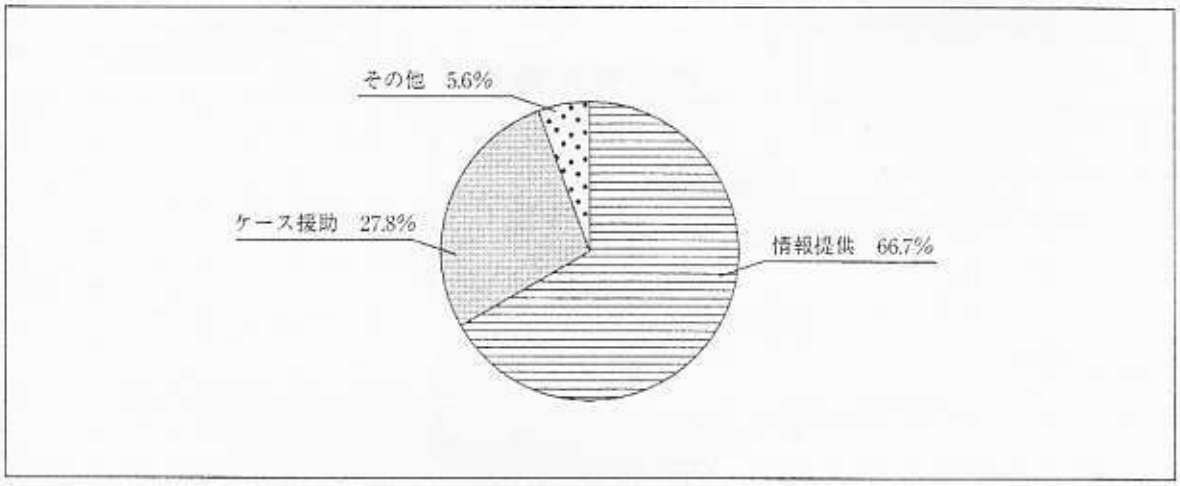
図6　教 育 機 関



(5) 医療機関に対する技術指導・技術援助

主な内容は、1．情報提供（社会資源の紹介＝専門クリニック、自助グループ、薬物依存症のリハビリ等）、2．ケース援助（心理テスト、カウンセリング依頼等）である。

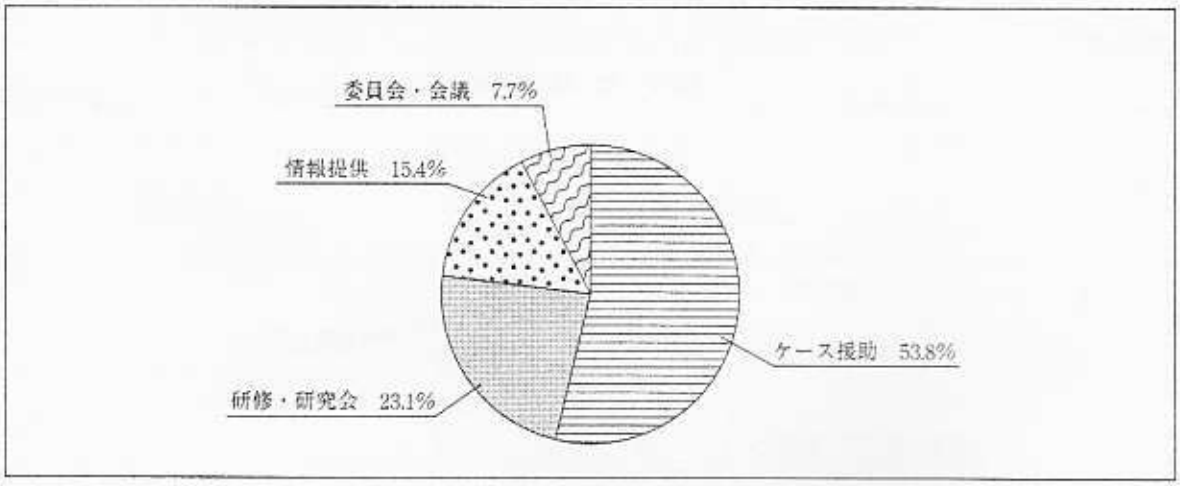
図7　医療機関



(6) 司法機関に対する技術指導・技術援助

技術指導・技術援助を実施した機関は、県警本部、警察署、家庭裁判所、保護司等で、その内容は、1．ケース援助（犯罪被害者のケアに関すること、精神疾患、薬物依存）、2．研究・研修会への講師派遣（被害者カウンセリング等）である。

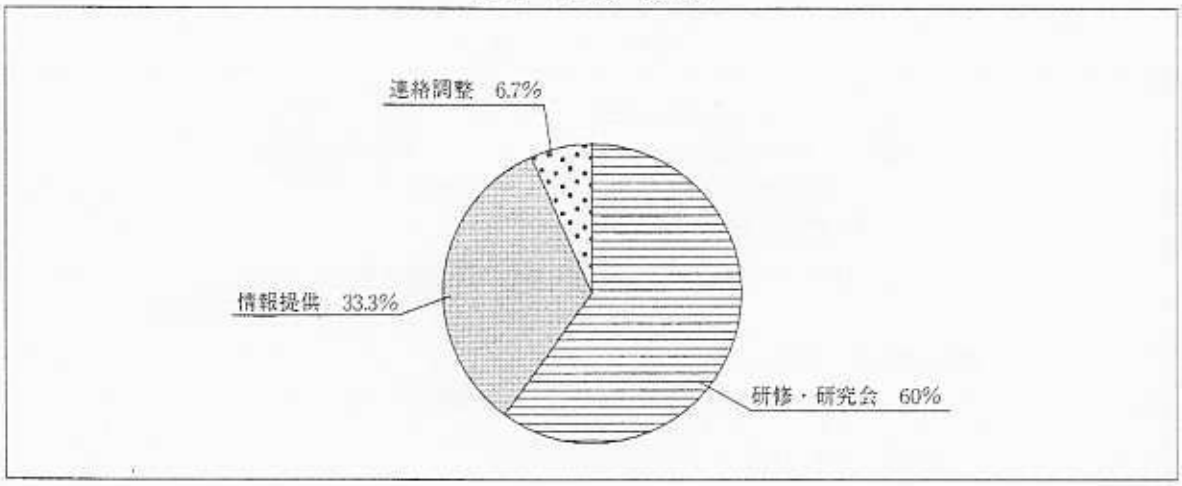
図8　司法機関



(7) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助

技術指導・技術援助を実施した機関は、企業の人事管理、健康管理を担当する部局、産業保健推進センター、労働基準監督署等で、内容は、1．研修・研究会、2．情報提供で、いずれもメンタルヘルス、ストレスケアに関する内容であった。

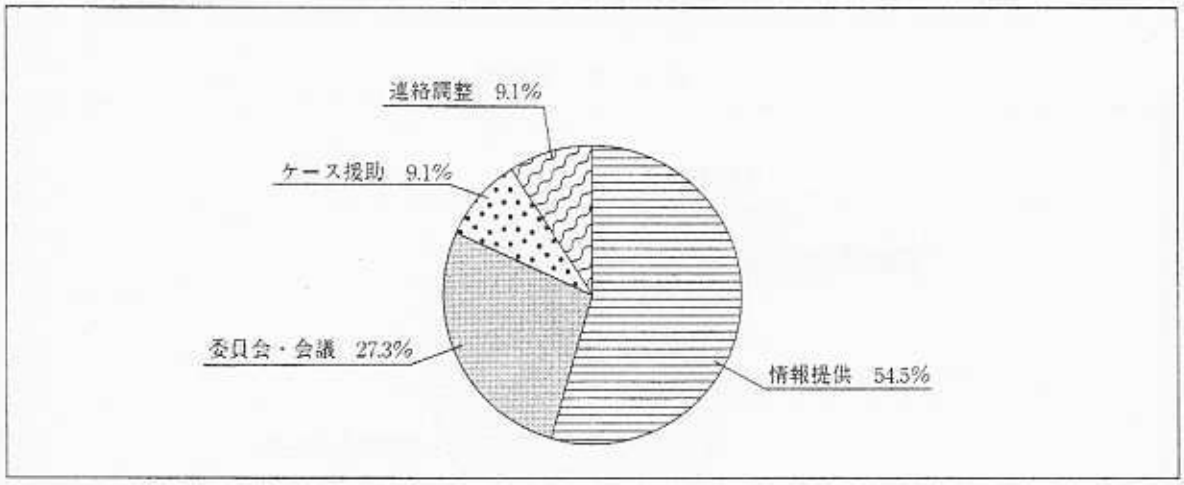
図9　労働機関



(8) 精神保健福祉団体に対する技術指導・技術援助

技術指導・技術援助を実施した機関は、ボランティア、小規模作業所、地域生活支援センター等で、内容は、1．情報提供（社会資源紹介）、2．委員会・会議（運営委員会へ職員の派遣）である。

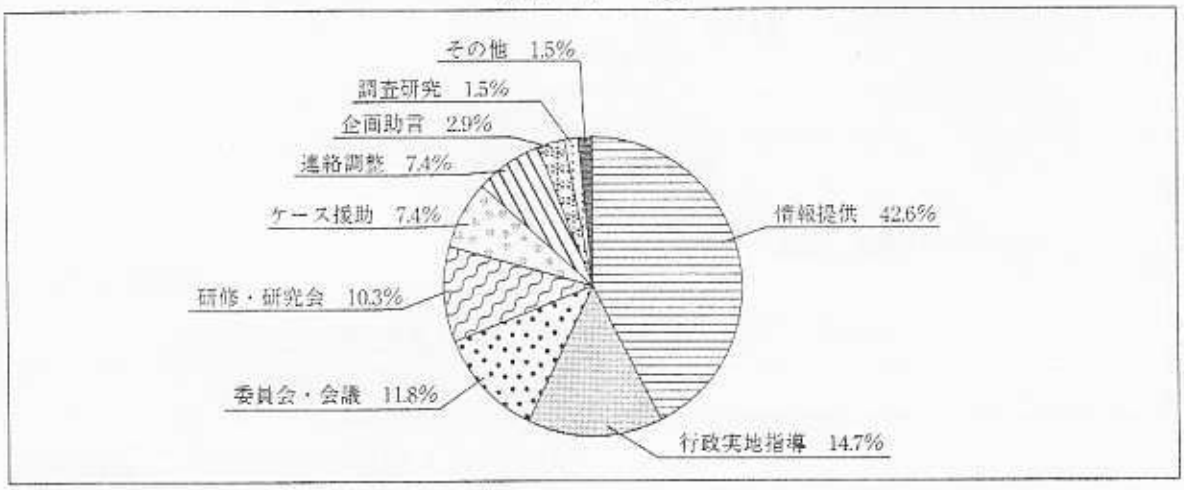
図10　各種精神保健団体



(9) 行政機関に対する技術指導・技術援助

技術指導・技術援助を実施したのは、県庁各課で、健康福祉部の各課、総務部職員課、広報公聴課等で、内容は、1．情報提供（PTSD、HIV、カウンセリングについて、相談対応の方法について）、2．行政実地指導、3．委員会会議（精神障害者居宅生活支援に係る委員会、職員健康管理、ヘルシービーブル、健やか親子等会議への職員派遣）である。

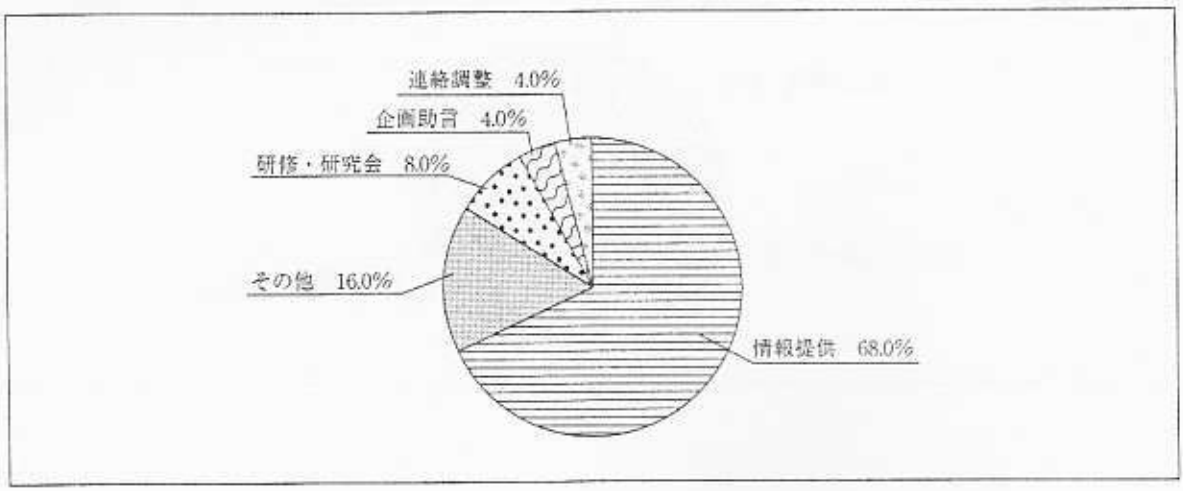
図11 行　政



(10) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助

技術指導・技術援助を実施したのは各県精神保健福祉センター、新聞社、健康保険組合等で、内容は、1．情報提供（各県の精神保健福祉センターからは、法律改正後の組織、体制に関する照会が主、その他機関からはひきこもり、薬物依存、メンタルヘルスに関する社会資源の紹介）である。

図12 その他機関



3. 教　育　研　修

(1) 精神保健福祉研修

(2) 学生実習

(3) 社会復帰指導者研修（デイケア）

教　育　研　修

(1)　精神保健福祉研修

当センターの研修は、県下全域において精神保健福祉活動を推進する専門機関を対象として実施している。県内における精神保健福祉の向上を図る総合的な技術の中枢機関としての立場から、保健福祉関係以外の関連諸機関をも対象とした研修を行っている。

今年度は、平成14年度より精神保健福祉の窓口が市町村に委譲されることから、それらの業務がスムーズに対応できるように、関係者の質の高い知識、技術の習得を目指しておこなった。

教育研修、見学、実習等の実施状況は、表１のとおりである。

表１　平成13年度教育研修実施実績

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
老人精神保健福祉研修会	平成13年６月９日	保健、福祉、医療、その他関係者	63
市町村（県）精神保健福祉幹部研修会	平成13年６月27日	県保健福祉部、市町村の保健・福祉関係者	116
児童青年精神保健福祉研修会	平成13年８月10日	県保健福祉部、市町村、教育、司法、その他関係者	90
ストレス対策研修会	平成13年８月２日 平成13年８月16日	県保健福祉部、中学・高等学校、教育研究所	63 55
思春期問題事例検討会	平成13年８月28日	教育	55
市町村精神保健福祉担当者研修会	平成13年８月29日 平成13年９月14日 平成13年10月18日	県保健福祉部、市町村、医療等の精神保健福祉相談担当者、社会復帰施設職員	85 73 71
地域精神保健福祉研修会	平成14年２月19日	県保健福祉部、市町村、教育、司法、その他関係者	129
社会復帰指導者研修会	４月～12月 （19回）	市町村	81

計29回　881名

市町村（県）精神保健福祉幹部研修会

精神保健福祉についての概要を理解し、地域における精神保健福祉活動の推進を図る。

日　　程	内　　容
平成13年6月9日 10：40～16：00	講義 「精神障害者を地域で支えるために… 法改正をめぐって…」 つくばライフサポートセンター理事長 東京成徳大学　人文学部　教授　新　保　祐　元 「精神保健福祉法の解釈と運用」 県障害福祉課長　長　坂　裕　二 「精神障害・精神疾患への理解と対応」 こころの健康センター　所長　崎　山　　忍

老人精神保健福祉研修会

老人を取り巻く環境にも変化が起こり、社会や職場からの引退、それに伴って社会的地位の喪失、収入の減少、対人関係の狭小化、家庭内での中心的地位の喪失、配偶者との死別、疾病などが生じやすい。このように心身の変化の影響を受け、老人の心と身体の変化が著しい。

このような時期にある老人の心と身体を理解をする。

日　　程	内　　容
平成13年6月9日 15：00～17：00	講演 座長　いのうえ心身クリニック　院長　井　上　　桂 「痴呆の原因として今も忘れてはならない梅毒 …外来精神科での経験から…」 済生会松阪総合病院精神科　医長　中　瀬　玲　子 特別講演 座長　三重大学医学部精神神経科学講座　教授　岡　崎　祐　士 「長寿者のこころとからだ」 桜美林大学文学部教授・生涯発達研究所所長　柴　田　　博

児童（青年）精神保健福祉研修会

今、子どもたちは、様々なストレスを受け疲れている。

このような子ども達を支えるためのコミュニケーションのあり方を学ぶ。

日　　程	内　　容
平成13年8月10日 10：00～12：00	講演「子どもを支えるために…こころと体のサポート… 元気になるコミュニケーションのあり方」 くまの元気広場主宰 県スクールカウンセラー　中　川　一　郎　（臨床心理士）

ストレス対策研修会

めまぐるしく変動する社会の中で、すべての人々がストレスを感じている。殊に思春期・青年期においては、身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期であり不安定になりやすい。このような時期の「キレル」子ども達への対応について考える。

日　　程	内　　容
平成13年8月2日 13：30～15：30	講演「中・高生のストレスマネージメント」 講師：愛知産業大学　教授 三重大学　客員教授 橋　元　慶　男
平成13年8月16日 13：30～15：30	演習「中・高生のストレスマネージメント」 講師：愛知産業大学　教授 三重大学　客員教授 橋　元　慶　男

思春期問題事例検討会

不登校事例をとおして現代の中・高校生のもつ心の問題を知り学校保健に於ける精神保健福祉活動のあり方について考える。

日　　程	内　　容
平成13年8月28日 13：30～16：00	事例名 「中学女子の不登校児」 事例提供者　上野市立崇廣中学校　養護教諭　井　田　敬　子 助言者　こころの健康センター　所長　崎　山　　忍

市町村精神保健福祉担当者研修会

平成14年度から精神保健福祉法が改正され福祉サービスの窓口業務が市町村に移管されることから担当者が精神保健福祉業務を円滑にするための知識を習得する。

日　　程	内　　容
平成13年8月29日 10：00～16：00	講義・演習 「ケアマネージメント」 日本福祉大学教授　野　中　　猛 事例提供　長島町　保健婦　斉　藤　幸　枝
9月12日 10：00～16：00	講義・演習 「ケアマネージメント」 日本福祉大学教授　野　中　　猛 事例提供　志摩町　保健婦　永　井　裕　子 紀南保健福祉部　保健婦　岩　崎　　史
10月8日 13：30～15：30	講義 「引きこもりを考える」 あるく相談室　主宰　小　寺　明　美

地域精神保健福祉研修会

近年、青少年を取り巻く生育環境は様々に変化しており、思春期を中心に適応障害や、神経症的症状、心身症的症状を持つ青少年が増加している。

これらの問題に対処するための知識を習得し、地域ケアーに役立てる。

日　　程	内　　容
平成14年2月19日 13：30～15：30	講義 「最近の思春期の病態とその対応のあり方 …ひきこもり、犯罪、最近のボーダーラインの特徴…」 東京慈恵会医科大学　教授　牛　島　定　信

その他

センターで主催する教育研修については、別表の通りであるが、また関係機関が実施する専門的な研修について、講師派遣の依頼があった。（別表）

教育研修　講師派遣分

教　育　研　修　名	実　施　回　数	受　講　者　数
三重大学医学部	1	70

(2)　学生実習

当センターで実習を実施したのは下記の通りである。

受　講　者　名	実　施　回　数	受　講　者　数
三重大学医学部学生	4	16
三重県立看護大学	1	2
皇學館大學	1	1

(3) 社会復帰指導者研修（デイケア）

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とし、平成元年より実施している。平成８年より、市町村職員も受け入れ、また、学生等の実習の場としても活用されている。平成13年度の実施回数は延20回、参加者は延81名である。

精神保健福祉法改正により、平成14年度より精神障害者の在宅福祉事業が市町村に委譲されるため今年度は市町村の精神保健福祉に関わる職員を対象に研修を実施した。第１日目講義、第２日目デイケア実習、第３日目全体討論（話題提供１回目青山町服部恵子保健婦、２回目飯高町水谷由美子保健婦）を１クールとし、年２クール実施し、市町村別参加者は下表のとおりである。

平成13年度　社会復帰指導者研修市町村別出席者数

市町村	第１日目	第２日目	第３日目
藤原町	1	1	
北勢町	1	1	1
多度町	1		
員弁町	1		
東員町	2	2	
桑名市	1	3	2
菰野町	2	2	1
四日市市	1	1	1
河芸町	1	1	
安濃町	2	1	
久居市	1	1	1
津市	2		1
香良洲町	2		
白山町	2	1	1
阿山町	1		
大山田村	2	2	1
名張市	4	2	2
飯南町	1	1	
宮川村	1		1
小俣町	1	2	2
玉城町	1	2	
熊野市	2	2	
紀宝町	1		
鵜殿村	1	1	1
計	35	26	15

《精神障害者集団活動（デイケア）》

社会復帰指導者研修会の実習の場として、精神障害者集団活動（デイケア）を平成元年７月より実施している。実施要領は下記のとおりである。

●目　　的

在宅精神障害者に対し、個別、集団活動を通じて対人関係の改善、社会的習慣の確立、就労意欲の向上など、社会生活の自立を図る。

●対　　象

センター来所者及び保健所、病院などから紹介のあった者で、本人及び保護義務者の希望する者の中から、次によってセンターが決定する。

１．精神障害の回復期にあたって、社会復帰をめざしている者。

２．自宅より通所が可能な者。

３．年齢15歳以上で通所可能な者。

４．定員は25人とする。

●実施日時

毎週月曜日、午前９時30分～午後３時までとする。

●期　　間

期間は１年とする。ただし、通所期間を更新する場合は、１年毎に継続申込書を提出する。

●実施場所

原則として、こころの健康センター内で行う。

●費　　用

参加費は無料。

ただし交通費及び昼食代、材料費、特別活動に要する費用は本人負担とする。

●指導者

原則として、センターの職員をもって行うが、内容によっては外来講師及び一般協力者の参加を得て行う。

●主な活動内容

１．集団活動

プログラムの内容は、創作、スポーツ、料理、話し合い、野外活動等メンバーの話し合いにより決定する。

２．個別相談

定期的に個別相談と随時家庭訪問を行う。

３．会　　議

・スタッフミーティング　毎週月曜日（午後３時30分～５時）

・通所決定会議（随時）

【申し込み→DC見学、インテーク面接（家族同伴）→申込書提出→通所決定会議→結果通知】

4．通所申込書、同意書

参加にあたり本人、家族より「通所申込書」・「同意書」（様式１・２）を得る。

5．記　　録

・デイケア業務日誌を作成する。

・個人の活動については「個人参加記録」に記入する。

●平成13年度実施状況

1．年間実施回数　42回（週１回）

2．年間参加者数　延人数　37名

実人数　25名

3．平均１回当り参加者数　９名

4．年令別参加者数

性別＼年令	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	計
男	1	0	1	2	2	1	3	1	11
女	0	0	3	4	3	1	1	2	14
計	1	0	4	6	5	2	4	3	25

5．保健所管内別参加者数

桑　名	鈴　鹿	津	久居支所	松　阪	伊　賀	計
1	3	7	8	4	2	25

4. 普　及　啓　発

(1) 所報「平成12年度版こころの健康センター所報」の発行

(2) 三重県こころの健康センターのパンフレットの作成

(3) ホームページの開設

(4) メンタルヘルス公開講座の開催

(5) 講演活動

普及啓発

(1) 所報「平成12年度版　こころの健康センター所報」の発行

平成13年12月に1,000部を発行し、関連諸機関へ配布した。

(2) 三重県こころの健康センターのパンフレットの作成

県民及び各関係機関に対しセンターの業務内容を周知してもらうことを目的に、平成14年２月に2,000部を発行した。

(3) ホームページの更新

平成13年10月に「メンタルヘルス公開講座」・平成13年11月に「精神保健ボランティア全国大会のつどい」のお知らせを掲載した。

アドレス　http://www.pref.mie.jp/KOKOROC/HP/index.htm

(4) メンタルヘルス公開講座の開催

近年、社会の複雑化、多様化にともない、ストレスの蓄積などのこころの健康に関する問題は身近なものになってきている。このような中、メンタルヘルスについての知識と情報を提供し、地域におけるこころの健康の増進を目的として、一般県民を対象にメンタルヘルス公開講座を開催した。

１．日　時：平成13年12月20日（木）　午後１時から午後４時00分

２．場　所：三重県久居庁舎２階　第25会議室（久居市明神町2501－１）

３．内　容：講演・シンポジウム

時　　間	内　　容
13：00～	受付
13：30	心の健康センター所長挨拶
13：40～16：00 【講演・質疑を含む】 司会：所長	シンポジウム「ストレス社会の中で生活する現代人のメンタルヘルスについて」 『児童・青年のメンタルヘルスについて』 斉藤メンタルクリニック院長　斉　藤　先生 『働き盛り・中壮年のメンタルヘルスについて』 おおごし心身クリニック院長　大　越　先生 『老人のメンタルヘルスについて』 いのうえ心身クリニック院長　井　上　先生
16：00	終了

(5) 講演活動

精神保健に関する知識の普及啓発を目的とし、関係諸機関からの要請により実施した。今年度の講演等の実施回数は69回で、対象者は3,257名であった。講演等の内容は多岐にわたっているが、特に平成13年度はメンタルヘルスをテーマとした講演が増えているのが特色である。また、派遣先もその領域が広がり、多方面からの要請が増え、今後ますますセンターへの期待が大きくなっていくことが予想される。

	老人精神保健	思春期	薬物	社会復帰促進	メンタルヘルス	産業保健	その他	計
保健所	0	3	3	13	1	0	0	20
	0	24	208	444	20	0	0	696
福祉機関	0	0	0	5	3	0	1	9
	0	0	0	411	61	0	350	822
行政機関	0	0	1	3	1	0	0	5
	0	0	127	490	15	0	0	632
教育機関	0	0	0	0	3	0	0	3
	0	0	0	0	59	0	0	59
市町村	1	0	0	6	12	0	1	20
	42	0	0	151	348	0	25	566
その他	0	1	0	0	4	3	2	10
	0	22	0	0	166	215	16	419
計	1	4	4	27	24	3	4	67
	42	46	335	1,496	669	215	391	3,194

※上段　回数
下段　人数

1．保健所

実施年月日	名称	内容	対象者	人数	主催者	派遣者
H13.5.7	南勢志摩管内精神保健福祉研修会	これからの精神福祉、デイケアの基礎知識、作業所の役割	市町村職員・南志職員・センター職員	50	南志県民局保健福祉部	DR・CP
H13.5.31	精神保健福祉研修会	精神障害のデイケアについて	市町村職員	20	伊賀県民局保健福祉部	DR・CP
H13.6.29	伊賀地域精神保健福祉連絡協議会研修会	H13年伊賀地域精神保健福祉連絡協議会	市町村・警察・病院関係者	30	伊賀県民局保健福祉部	DR・CP
H13.7.2	精神保健福祉研修会	相談対応についての留意点	市町村・ボランティア・県保健福祉部の職員	58	北勢志摩保健福祉部	CP

実施年月日	名　　称	内　　容	対　象　者	人数	主　催　者	派遣者
H13.7.23	北勢ブロック精神障害者ケアマネージメント研修会	ケアマネーゾメント導入の意義・支援費支給制度	保健福祉部・市町村の職員	28	北勢ブロック保健福祉部	PHN
H13.7.24	薬物乱用防止対策推進本部紀北地域部会幹事会	薬物相談の現状について	教育・司法・民生委員	35	紀北県民局生活部&保健福祉部	PHN
H13.7.25	南勢志摩管内保健婦協議会研修会	精神保健福祉における保健婦の役割り	志摩管内、市町村PHN等の職員	15	保健婦協議会	PHN
H13.9.3	伊賀県民局管内福祉事務所	精神障害者対策の流れ、こころの健康センターの業務案内	福祉事務所職員	17	伊賀保健福祉部	PHN
H13.9.5	精神障害者家族教室	家族の心のリフレシュ	家族教室参加者・学生・担当PHN	21	伊賀県民局保健福祉部	CP
H13.9.11	こころの健康を守り、育てる研修会	クッキングハウスの実践紹介、参加者の対応、SSTによる訓練の対処、ロールプレイ	ボランティア・作業所・当事者・市町村職員・保健福祉部職員等	90	四日市、鈴鹿保健福祉部・こころの健康センター	DR・PHN
H13.9.28	障害者ケアマネージメント研修会	精神障害のケアマネージメント	市町村・県職員	13	南勢志摩保健福祉部	PHN
H13.10.2	メンタルヘルス職員研修	心のリフレッシュしませんか	管内県職員	20	伊賀県民局保健福祉部	CP
H13.10.26	薬物問題関係機関連絡会議	薬物依存からの回復、出席機関の現状について，事例検討	薬物問題関係機関職員、ダルク、ナラノジ	75	三重県こころの健康センター～南勢志摩保健福祉部	PHN
H13.11.1	精神保健ボランティア継続研修および家族教室	精神障害者への接し方	精神障害者家族、ボランティア、社会復帰施設等の職員	19	四日市保健福祉部	DR
H13.11.20	精神保健福祉関係者研修会	社会復帰施設の役割	市町村職員	60	桑名保健福祉部	DR
H13.11.26	精神保健福祉講座	精神障害者の理解のために	受講者と担当職員	23	四日市保健福祉部	CP
H13.11.28	鈴鹿保健福祉部精神保健研修会	薬物依存について	民生委員、市町村担当者、家族	98	鈴鹿保健福祉部	PHN
H13.12.7	思春期教室	思春期の子どもに対する家族支援について	思春期の子どもを持つお母さん	10	南志保健福祉部	DR
H14.2.1	思春期講座	思春期の親の役割について	思春期の子を持つ母親・児童グループの職員	9	南勢保健福祉部児童グループ	DR

実施年月日	名　　称	内　　容	対　象　者	人数	主　催　者	派遣者
H14.3.14	思春期講座	子どもの自立について	母親等	5	南志保健福祉部児童グループ	DR
計			696			

2．福　祉

実施年月日	名　　称	内　　容	対　象　者	人数	主　催　者	派遣者
H13.5.30	テーマ別介護講座介護講座	講義・演習心のリフレッシュ	介護職員	20	長寿社会推進センター	CP
H13.6.27	三重県ホームヘルパー協議会代議員会総会	精神障害者福祉について	県下ホームヘルパー協議会代議員	55	三重県社会福祉協議会	PHN
H13.8.17	精神保健福祉ボランティアスクール	こころの健康センター概要・相談活動についての留意点	受講者	8	鈴鹿社会福祉協議会	CP・PHN
H13.9.17	三重県民事協課題別研修会	精神障害の理解と対応	民生委員	214	社会福祉協議会	DR
H13.10.31	テーマ別介護講座	介護する人の心のケア…心のリフレッシュ…	受講者	20	長寿社会推進センター	CP
H14.1.22	津市民生委員児童委員研修会	精神障害者の理解について	民生児童委員	120	津市民生児童委員連合会	DR
H14.1.30	県　身体・知的障害者相談員等研修会	カウンセリング技法について	身体知的障害者相談員	350	県身体障害者福祉連合会	CP
H14.2.22	第12回ネットワーク夢会議	日中の暮らしの中での作業を通じてのリハビリテーション	夢の郷職員&関連機関職員	14	夢の郷	DR
H14.2.25	テーマ別介護講座	介護する人の心のリフレッシュ	受講者	21	長寿社会推進センター	CP
計			822			

3．教　育

実施年月日	名　　称	内　　容	対　象　者	人数	主　催　者	派遣者
H13.10.4	大内山心のケア体験研修	ストレスケアルームでリラックス体験	生徒と先生とセンター職員	9	大内山中学校	PSW
H13.11.21	元気づくり体験職員研修	メンタルヘルスについて	参加者と担当職員	15	大安町教育委員会	CP

実施年月日	名　　称	内　　容	対　象　者	人数	主　催　者	派遣者
H14. 1 .16	三重夢学園教職員研修会	生徒のこころの問題とその対応の基本	みえ夢学園教職員	35	三重夢学園	DR
計			59			

4．市町村

実施年月日	名　　称	内　　容	対　象　者	人数	主　催　者	派遣者
H13. 6 . 8	こころと身体の健康づくり教室	ストレスと心の健康について	住民・保健婦・課長	15	島ヶ原村	PSW
H13. 6 .14	介護職員研修会	精神分裂病の治療と在宅ケア	青山町介護職員・保健婦	11	青山町	DR
H13. 6 .20	ストレスマネージメント研修会	ストレスケア及びこころの健康障害に対する職場の対応	小俣町安全衛生委員	48	小俣町	PHN
H13. 7 .27	精神障害基礎知識研修	精神障害についてとその対応	保健・福祉・教育・関係職員、ホームヘルパー、町長他	80	紀伊長島町	DR
H13. 9 .13	メンタルヘルス体験研修	メンタルヘルス体験研修	市職員	10	伊勢市役所	PSW
H13. 9 .14	メンタルヘルス体験研修	メンタルヘルス体験研修	市職員	11	伊勢市役所	PSW
H13. 9 .14	精神保健研修会	高齢者の精神の病気について	介護施設職員、在宅介護支援センター相談協力員他	42	飯南町	DR
H13. 9 .19	大安町元気づくり体験	リラックス体験	大安町職員	24	大安町	PSW・PHN
H13. 9 .20	大安町元気づくり体験	リラックス体験	大安町職員	29	大安町	PSW
H13. 9 .21	大安町元気づくり体験	リラックス体験	大安町職員	29	大安町	PSW
H13. 9 .26	メンタルヘルス体験研修	メンタルヘルス研修	市職員	10	伊勢市役所	PSW
H13. 9 .27	大安町健康委員視察研修	メンタルヘルス研修	健康委員・町職員・センター職員	26	大安町	PSW
H13.10. 4	二見町職員研修	ケアマネージメント、分裂病の理解	町職員	14	二見町役場	PHN

実施年月日	名　　称	内　　容	対　象　者	人数	主　催　者	派遣者
H13.11.2	伊勢市職員メンタルヘルス研修会	メンタルヘルスの基礎知識	伊勢市職員	20	伊勢市職員課	DR
H13.11.7	伊勢市職員メンタルヘルス研修会	メンタルヘルスの基礎知識	伊勢市職員、主として課長級	20	伊勢市職員課	DR
H13.11.20	大安町元気づくり体験職員研修	こころの健康づくりについて	大安町職員	106	大安町	PSW
H14.1.14	H13年度多気町保育士研修会	今、幼児と我が心を育むために	保育士・住民課職員	25	多気町	PSW
H14.1.31	訪問指導担当者研修会	精神障害者に対する面接技術	保健婦、看護婦、栄養士、歯科衛生士、理学療法士	29	津市保健センター	CP
H14.2.5	精神障害者家族教室	精神障害について	家族他	7	二見町	DR
H14.2.20	家族教室	精神障害者への接し方	家族・町保健婦・社協職員、県保健福祉部職員	10	二見町福祉保健課	CP
計			566			

5．行　政

実施年月日	名　　称	内　　容	対　象　者	人数	主　催　者	派遣者
H13.7.9	職場のメンタルヘルス	職場のメンタルヘルスについて	県民局各所属長等	15	県職員課	DR
H13.7.13	市町村精神保健福祉担当者研修会	精神分裂病の概略	市町村精神保健福祉担当者	145	障害保健福祉課	DR
H13.7.13	市町村職員研修会	精神障害者のケアマネージメントの考え方	市町村職員	145	障害保健福祉課	PHN
H13.7.26	障害者ケアマネージメント従事者養成研修会	精神障害の基礎知識	障害者ケアマネージメント従事者	200	障害保健福祉課	DR
H13.11.29	薬物乱用防止教育指導者研修会	三重県における薬物相談事例についての報告	教諭、保護司、保健福祉部職員、学校薬剤師	127	薬務食品課・教育委員会	PHN
計			632			

6．その他

実施年月日	名　　称	内　　容	対　象　者	人数	主　催　者	派遣者
H13. 7 .13	女性被害捜査専科	女性被害犯罪の被害者に対するカウンセリング要領について	専科入校生・担当者	8	県警察本部	ＣＰ
H13. 9 .13	事業主セミナー	心の健康づくりについて、ストレスについて	伊勢市の事業主	60	産業保健推進センター	DR
H13. 9 .19	カウンセリング研修	少年相談におけるカウンセリング技術について	警察少年補助員等	22	県警本部生活安全部少年課	ＣＰ
H13. 9 .27	事業主セミナー	職場のメンタルヘルスについて	久居地区、50名以上の事業所事業主	35	産業保健推進センター	DR
H13.11. 9	心の健康づくり	ストレスケアについて	AGF職員とセンター職員	15	ＡＧＦ	ＰＳＷ
H13.11.13	熊野地区安全衛生大会	メンタルヘルス一般	北区事業所員	120	労働基準監督署	DR
H13.11.14	事業主セミナー	メンタルヘルス一般	労使中心	120	四日市市立コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会	DR
H13.12. 7	ストレスケア研修	職場のメンタルヘルスについての講義	別添	9	ＡＧＦ	ＰＳＷ
H13.12.17	健康保険組合役職員等研修会	メンタルヘルスの基礎知識について	健康保険組合役職員	22	健康保険組合	DR
H14. 3 . 8	女性被害捜査専科教養	女性被害犯罪の被害者に対するカウンセリング	入校生	8	三重県警察本部	ＣＰ
計			419			

5. 精神保健福祉相談

(1) 精神保健福祉相談

(こころの健康相談・こころのテレフォン相談)

(2) 思春期講座

精神保健福祉相談

(1) 精神保健福祉相談（こころの健康相談・こころのテレフォン相談）

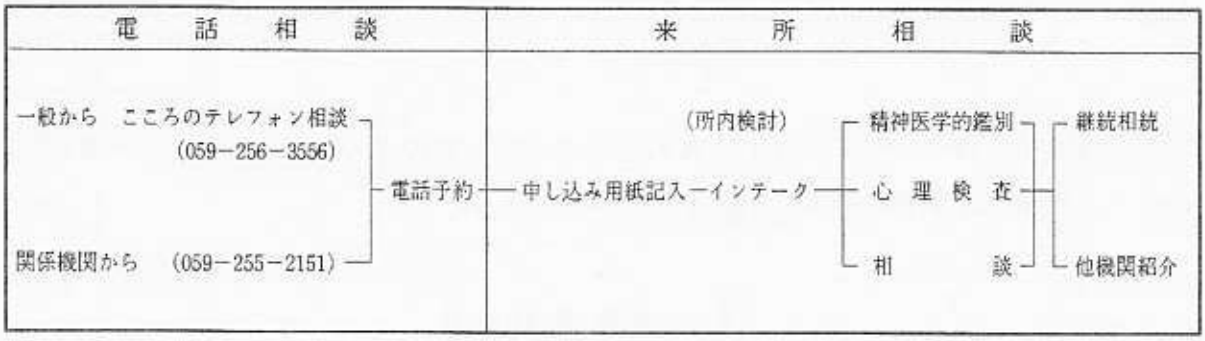
精神保健福祉相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

「こころの健康相談」は、思春期・老年期・アルコールのような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成13年度の相談員は、医師２名（所長、精神科医１名）、保健婦（精神保健相談員２名）３名、精神科ソーシャルワーカー１名、心理技術者２名の計８名である。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後４時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）２名があたっている。

相談の流れは、図１に示してある。この基本的な考え方は所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図１　相　談　の　流　れ



平成13年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数は、表１のとおりで、前年度と比べると、来所相談が50.3%、電話相談が78.9%で、新規件数も45.7%、93.5%と共に減少している。全体の相談件数では70.6%、新規件数は83.7%に減少となっている。

表１　平成13年度　相談件数

		件　数	構成比（%）
こころの健康相談		972（ 118）	21.1
こころのテレフォン相談		3,636（ 928）	78.9
再掲	思春期	345（ 202）	7.5
	老年期	283（ 71）	6.1
	酒　害	20（ 17）	0.4
計		4,608（1,046）	100.0

※（　）内は新規件数再掲

最近6年間の年度別相談件数の推移は表2のとおりである。来所相談は、年々増加してきていたが、13年度は昨年度に比べ半減している。新規事業（こころのケアネットワークづくり事業）、ベンチマーキングによる方向の変換、法定業務の準備、職員の移動等が減少の原因と考えられる。

表2　精神保健福祉相談件数（年度別）

		平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
こころの健康相談（来所相談）		955 (91)	1,089 (170)	1,243 (155)	1,576 (243)	1,931 (258)	972 (118)
こころのテレフォン相談		3,448 (675)	4,340 (728)	5,187 (723)	5,444 (952)	4,593 (992)	3,636 (928)
再掲	思春期	395 (164)	462 (175)	412 (183)	690 (259)	737 (239)	345 (202)
	老年期	209 (56)	185 (52)	198 (57)	431 (107)	374 (113)	283 (71)
	アルコール	13 (13)	21 (14)	21 (16)	23 (19)	26 (18)	20 (17)
計		4,403 (766)	5,429 (898)	6,430 (878)	7,020 (1,195)	6,524 (1,250)	4,608 (1,046)

※（　）内は新規件数再掲

相談者別件数（表3）をみると、例年通り本人の割合が85.2%と高くなっており、本人の継続相談が多いことがわかる。新規件数の割合は昨年とほぼ同じである。

表3　相談者別件数

	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比（%）
本人	842（ 58）	3,086（ 519）	3,928（ 577）	85.2（ 55.2）
家族	125（ 60）	496（ 363）	621（ 423）	13.5（ 40.4）
その他	5（ 0）	54（ 46）	59（ 46）	1.3（ 4.4）
計	972（ 118）	3,636（ 928）	4,608（1,046）	100.0（100.0）

※（　）内は新規件数で内数

表4　年代別、性別　相談件数

区分	こころの健康相談			こころのテレフォン相談			合計			総相談件数に対する比率(%)
年齢	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
0～5			0 (0)	2 (2)	2 (2)	4 (4)	2 (2)	2 (2)	4 (4)	0.1
6～12	4 (1)		4 (1)	13 (13)	9 (7)	22 (20)	17 (14)	9 (7)	26 (21)	0.6
13～15	10 (5)	10 (4)	20 (9)	17 (14)	12 (12)	29 (26)	27 (19)	22 (16)	49 (35)	1.1
16～18	4 (3)	13 (2)	17 (5)	54 (42)	39 (21)	93 (63)	58 (45)	52 (23)	110 (68)	2.4
児童計	**18 (9)**	**23 (6)**	**41 (15)**	**86 (71)**	**62 (42)**	**148 (113)**	**104 (80)**	**85 (48)**	**189 (128)**	**4.1**
19～22	25 (10)	20 (3)	45 (13)	76 (38)	65 (48)	141 (86)	101 (48)	85 (51)	186 (99)	4.0
23～29	35 (15)	89 (7)	124 (22)	190 (74)	159 (88)	349 (162)	225 (89)	248 (95)	473 (184)	10.3
30～39	107 (19)	248 (14)	355 (33)	483 (84)	452 (157)	935 (241)	590 (103)	700 (171)	1,290 (274)	28.0
40～49	111 (7)	91 (11)	202 (18)	196 (47)	1,358 (76)	1,554 (123)	307 (54)	1,449 (87)	1,756 (141)	38.1
50～59	32 (1)	112 (6)	144 (7)	41 (28)	173 (63)	214 (91)	73 (29)	285 (69)	358 (98)	7.8
60～64	21 (1)	4 (2)	25 (3)	9 (6)	20 (10)	29 (16)	30 (7)	24 (12)	54 (19)	1.2
65～69	1 (1)	1 (1)	2 (2)	8 (7)	123 (8)	131 (15)	9 (8)	124 (9)	133 (17)	2.9
70～	4 (2)	29 (2)	33 (4)	12 (11)	51 (20)	63 (31)	16 (13)	80 (22)	96 (35)	2.1
成人計	**336 (56)**	**574 (46)**	**930 (102)**	**1,015 (295)**	**2,401 (470)**	**3,416 (765)**	**1,351 (351)**	**2,975 (516)**	**4,346 (867)**	**94.3**
不明	1 (1)	0 (0)	1 (1)	28 (18)	44 (32)	72 (50)	29 (19)	44 (32)	73 (51)	1.6
合計	**355 (66)**	**617 (52)**	**972 (118)**	**1,129 (384)**	**2,507 (544)**	**3,636 (928)**	**1,484 (450)**	**3,124 (596)**	**4,608 (1,046)**	**100**

※（　）内は新規件数再掲

次に、年代別、性別相談件数（表4）をみてみると、年代別には来所相談・テレフォン相談ともに30代、40代が多いのは、例年と同様で、30代、40代で、66.1%を占めている。

性別には、来所相談、テレフォン相談共に女性が多く、特にテレフォン相談では、30代、特に40代の女性が圧倒的に多くなっている。今年度の変化としては、児童・思春期の相談が減少し、中高年～老年の相談の割合が高くなっていることである。

表5　保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比（%）
桑名	52（ 6）	121（ 60）	173（ 66）	3.8
四日市	24（ 8）	251（ 124）	275（ 132）	6.0
鈴鹿	72（ 13）	807（ 108）	882（ 121）	19.1
津	345（ 31）	714（ 160）	1,059（ 191）	23.0
久居	161（ 14）	142（ 93）	303（ 107）	6.6
松阪	118（ 18）	779（ 84）	897（ 102）	19.5
伊勢	67（ 10）	272（ 80）	339（ 90）	7.3
志摩	15（ 2）	40（ 22）	55（ 24）	1.2
伊賀	109（ 13）	163（ 64）	272（ 77）	5.9
紀北	0（ 0）	25（ 6）	25（ 6）	0.5
紀南	0（ 0）	10（ 8）	10（ 8）	0.2
県外	7（ 2）	242（ 71）	249（ 73）	5.4
不明	2（ 1）	70（ 48）	72（ 49）	1.5
計	972（ 118）	3,636（ 928）	4,608（1,046）	100.0

※（　）内は新規件数内数

次に、保健所管内別相談件数（表5）をみてみると、来所相談では津・久居が多く、この2保健所管内で全体の52.1%を占める。次に松阪・伊賀・鈴鹿と続く。志摩・紀北・紀南は少なく、地理的な要因は大きいと思われる。テレフォン相談は、鈴鹿・松阪・津が、多くなっている。又、県外からの相談者も昨年同様増加している。新規件数をみてみると、来所相談、テレフォン相談共に、昨年同様津が多くなっている。他は、志摩・紀北・紀南を除いては、地域差は少ない。

相談内容別件数については、こころのテレフォン相談、来所相談別に、図２、図３に示す。

図２　テレフォン相談内容別件数

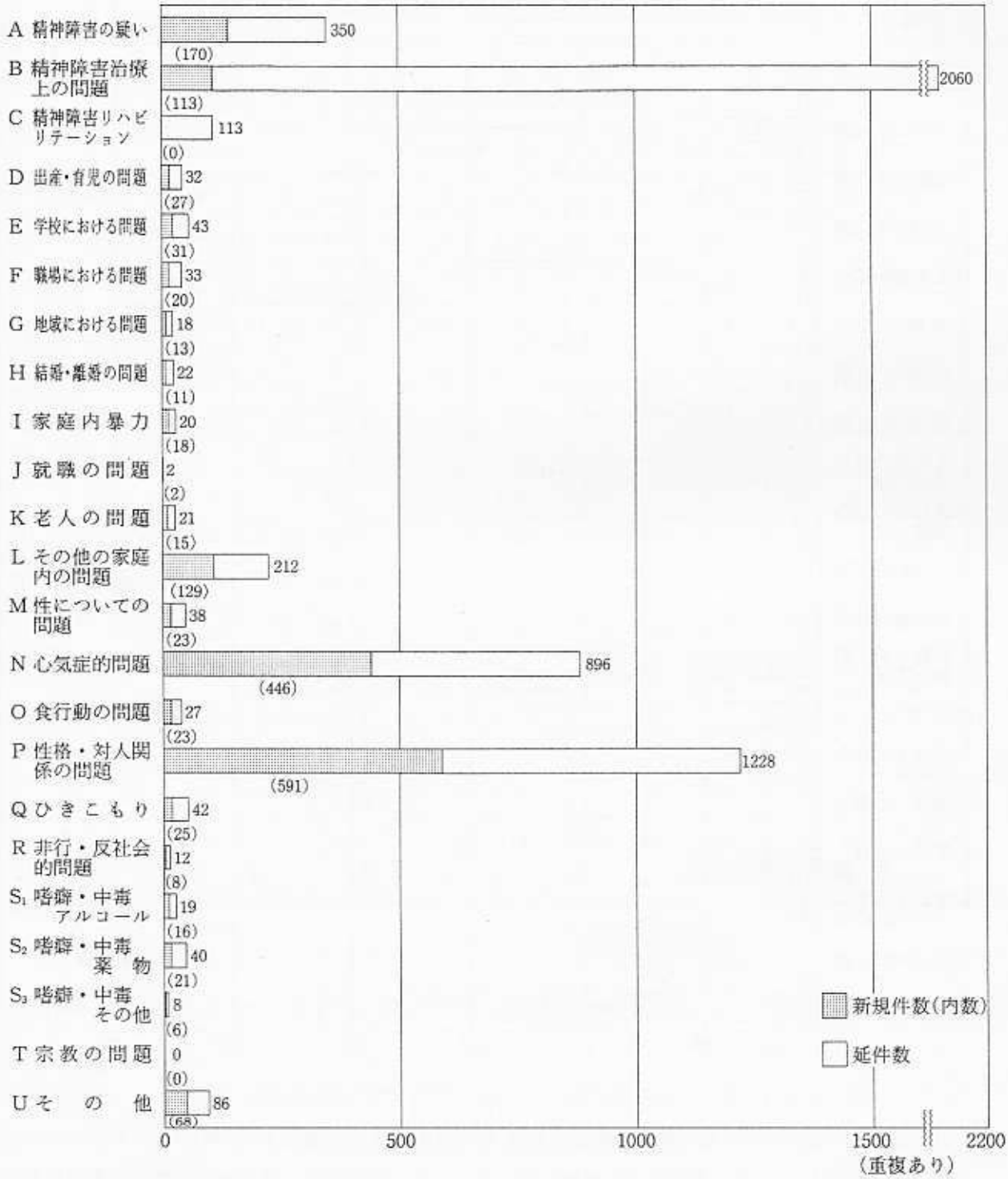
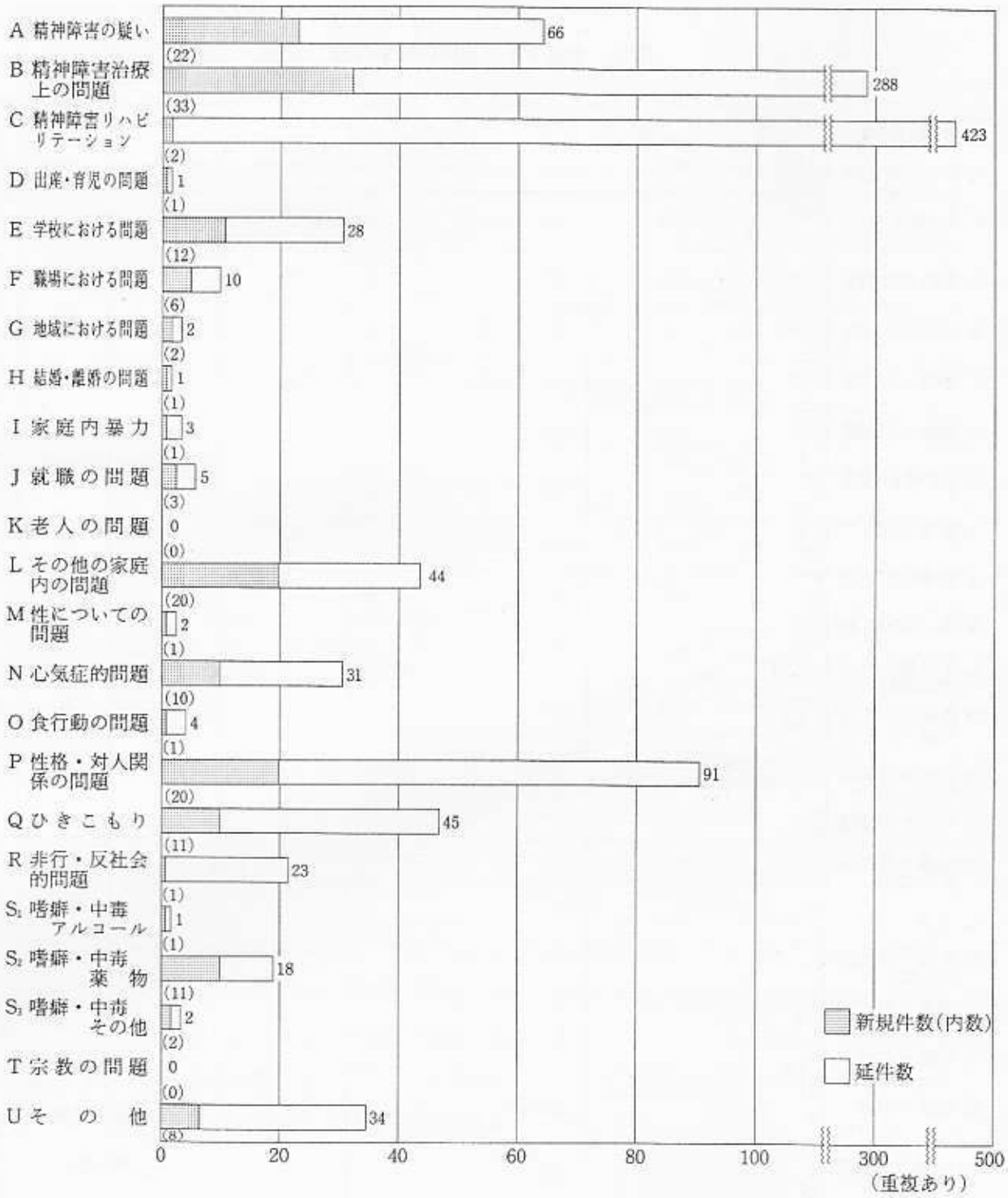


図３　来所相談内容別件数



内容を大きく分けると、精神障害に関したもの（A，B，C）と、適応障害（D～U）に分けることができる。一昨年、昨年と適応障害の増加が著しかったが、今年度は、精神障害に関する相談件数は71.7%、適応障害の相談件数は68.2%で、精神障害に関する相談の割合がやや高くなり、適応障害の増加に歯止めがかかっている。

テレフォン相談で昨年に比べ増加の著しい内容は、精神障害リハビリテーション2.5倍、出産・育児

の問題1.5倍である。来所相談では、特に増加の多かった内容はない。

今年度の診療件数は、実人員23名、延べ件数139件である。

〈特定専門相談〉

思春期相談

表6　思春期内容別相談件数

	来所相談（%）	テレフォン相談(%)	計（%）
A 精神障害の疑い	22（26.8）	40（15.2）	62（18.0）
B 精神障害治療上の問題	4（4.9）	26（9.9）	30（8.7）
C 精神障害リハビリテーション	1（1.2）	0（0）	1（0.3）
D 出産・育児の問題	0（0）	1（0.4）	1（0.3）
E 学校における問題	26（31.7）	35（13.3）	61（17.7）
F 職場における問題	4（4.9）	4（15.2）	8（2.3）
I 家庭内暴力	0（0）	6（2.3）	6（1.7）
L その他の家庭内の問題	1（1.2）	21（8.0）	22（6.4）
M 性についての問題	2（2.4）	20（7.6）	22（6.4）
N 心気症的問題	1（1.2）	130（47.4）	131（38.0）
O 食行動の問題	2（2.4）	11（4.2）	13（3.8）
P 性格・対人関係の問題	13（15.9）	174（66.2）	187（54.2）
Q ひきこもり	17（20.7）	24（9.1）	41（11.9）
R 非行・反社会的問題	0（0）	6（2.3）	6（1.7）
S 嗜癖・中毒	5（61.0）	9（3.4）	14（4.1）
U その他	1（1.2）	10（3.8）	11（3.2）
総件数	82（100.0）	263（100.0）	345（100.0）

（重複あり）

思春期は、中学生から大学卒業までの年齢（13歳～22歳）を考えている。表6に思春期の相談内容別件数を示した。

来所相談は、82件あり、来所相談全件数の8.4%であり、又昨年度の件数に比べ19.5%に減少している。内容別にみると、学校における問題が最も多く、26件（31.7%）で、次に精神障害の疑い、ひきこもり、性格・対人関係の問題と続いている。

テレフォン相談は、263件でテレフォン相談全件数の7.2%である。内容別にみると性格、対人関係の問題と心気症的問題が圧倒的に多い。

昨年に比べ、増加しているのは、心気症的問題である。

老年期相談

表7　老年期内容別相談件数

	来所相談（%）	テレフォン相談（%）	計（%）
A 精神障害の疑い	1（ 1.7）	23（ 10.3）	24（ 8.5）
B 精神障害治療上の問題	28（ 46.7）	61（ 27.4）	89（ 31.4）
C 精神障害リハビリテーション	0	68（ 30.5）	68（ 24.0）
F 職場における問題	0	1（ 0.4）	1（ 0.4）
G 地域における問題	0	3（ 1.3）	3（ 1.1）
H 結婚・離婚の問題	0	1（ 0.4）	1（ 0.4）
K 老人の問題	0	20（ 9.0）	20（ 7.1）
L その他の家庭内の問題	4（ 6.7）	18（ 8.1）	22（ 7.8）
N 心気症的問題	3（ 5.0）	55（ 24.7）	58（ 20.5）
O 食行動の問題	0	1（ 0.4）	1（ 0.4）
P 性格・対人関係の問題	2（ 3.3）	64（ 28.7）	66（ 23.3）
R 反社会的問題	22（ 36.7）	1（ 0.4）	23（ 8.1）
S 嗜癖・中毒	0	4（ 1.8）	4（ 1.4）
U その他	0	10（ 4.5）	10（ 3.5）
総件数	60（100.0）	223（100.0）	283（100.0）

（重複あり）

60歳以上の老年期の相談は、今年度は283件であり、全件数の6.1%である。内容別件数は、表7に示してあるように、来所相談では精神障害治療上の問題が多い。テレフォン相談では、精神障害リハビリテーション、性格・対人関係の問題、精神障害治療上の問題、心気症的問題の順となっている。老年期では精神障害に関する相談が63.9%と昨年同様多くなっている。

アルコール相談

アルコール相談の件数は、今年度は20件で全件数の0.4%である。アルコールに関する相談はアルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、各保健所で相談を行っていることにより、例年通り、当センターにもちこまれることは少ないと思われる。

(2) 思春期講座

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とする。そのためさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否・家庭内暴力・非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現れ、マスコミを始めとした社会的な関心が高まっている。

また、拒食症・心身症なども増加の傾向にあるが、特にひきこもりの増加が著しい。

よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものもかわりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の思春期講座は、この時期の子供をもち、その対応に悩んでいる家族を対象に、5回の連続講座をもち、各分野の立場から「思春期とは」の講義と話し合いをもった。その中で思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

《平成13年度思春期講座の概要》

●目　　的

思春期は人間の一生の中でも身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期で、この時期は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりやすい。時には、不登校、家庭内暴力、心身症などの思春期における心の問題が生じる。

この講座では、思春期の子どもをもち、その対応に悩んでいる家族に対して「思春期とは」の理解を深め、この時期の子どもを支えるための知識・理解を深める。

●実施主体　　三重県こころの健康センター

●期　　間　　平成13年11月8日～平成14年3月14日

毎月一回（第2木曜日）　午後1時30分～午後3時30分

●場　　所　　三重県こころの健康センター

●対 象 者　　思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方

●内　　容　　講義　グループワーク、個別相談（希望者のみ）

●受 講 料　　無料

●定　　員　　20名

思春期講座

第一回

くわな心理相談室の鈴木　誠先生（臨床心理士）は「思春期・青年期の発達課題と危機」というテーマでお話をされた。その中で、心理的危機にある「こころの世界」は、愛する・憎むこと、離れる・失うこと、哀しみに浸ることの３つの「こころの仕事のしくじり」がある。そのようなこころの仕事がしくじると「こころの世界」バラバラになり、自動的に修復しようとする。つらいがこころの痛みはなくせない、という内容の話をされた。

第二回

県スクールカウンセラーの鵜飼臨床心理士は、「思春期・青年期の親子関係」というテーマで話され、先生が日頃の相談活動のなかで出会った事例をもとに、子どもが子どもとして生きられる居場所が必要であり親はその居場所を提供できることが大切である。また、子どもにたいして共感のメッセージを送り続けることの大切さを話された。

第三回

宝積クリニック院長の宝積　己矩子先生（精神科医）は「思春期・青年期の心と身体」というテーマで話された。その中でこの時期の子どもは、心と身体の変化に気づき、自分の気持ちを直截に表現し、自分らしく振る舞おうとする時期であり、気持ちを「言葉」より「動作や行動」であらわす。また家族には、それぞれにその時期のライフサイクルの課題がある。思春期・青年期の子どもの課題と親の現代の人生の課題が同じ場合もあり、それに気づくと、子どもの問題を理解しやすくなり、子どもを見守る態度にもなれる。と説明された。

第四回

サイコドラマの形式で、この時期の子どもを理解するために、親自身が思春期の体験をすることにした。思春期の子どもと親自身が自分の思春期を重ね合わせ、感慨深いものがあった。親自身が楽しい気持ちになり、今後子ども達の心を理解するのに役立つという、好意的な評価であった。

第五回

思春期講座を終了した３名のOB会員の方より、体験談を話して頂いた。その後参加者を２グループに分けて自由に討議をする場をもった。OB会員が各グループに加わってすすめられた。講義の内容を振り返りながら子どもの問題について積極的に考えようとする姿勢がうかがわれたり、自分の子どもの様子を話し、どの様にすれば良いのか、知恵を出し合うなど和気あいあいと進められた。このことはこの講座の意図する親自身が問題を考え、自らの姿勢を考えるという目的の出発点であると思われる。

またこの講座の終了後、OB会員より毎月１回開かれている思春期OB会へのお誘いのチラシが配布され、全員が参加を希望され。また思春期OB会員が、同じ悩みをもった親としてそれを乗り越えた体験を自ら

話、悩んでいる家族の相談をうけるなど、今後のOB会の活動が期待された。

思春期講座の経過

対象者を、思春期・青年期の子どもをもち、主として不登校・引きこもりの問題で悩んでいる家族を対象に講座を実施した。

参加者は市町村、教育などの紹介で参加された方が殆どであり、全員が個別相談を希望された。

参加者は講義の後の質問も個別の対応についての内容が多く、講座終了後も他の参加者と熱心に話し合っていた。問題の深刻さが感じられた。

参加者は15名であった。参加者を保健福祉部管内別にみる、松阪、伊賀が各３名、桑名、鈴鹿、津、四日市各２名、伊勢１名、であった。

家族は最近、社会的な問題を引き起こしている思春期・青年期の心の問題について、どのように子どもを理解したらよいか、またどのように対応したらよいのか真剣に考える機会となり、家族同士の絆も強まり、今後お互いの家族同士の支え合いも期待できる。

思春期講座のテーマ別参加者

日　時	内　　容	講　　師	参加人数
平成13年 11月８日	講義：思春期・青年期の発達課題と危機	くわな心理相談室 鈴　木　　誠	17
12月13日	講義：思春期・青年期の親子関係	県スクールカウンセラー 鵜　飼　真　波	14
平成14年 １月10日	講義：思春期・青年期の心と身体	宝積クリニック院長 宝　積　己知子	8
２月８日	グループワーク：思春期・青年期を思いだそう	こころの健康センター 久　保　早百合	9
３月８日	グループワーク：思春期の子どもの自立をめぐって	こころの健康センター 思春期OB会会員	13

５回　61名

6. 組　織　育　成

(1) 家族会・リーダー研修会

(2) 精神保健ボランティアの育成

(3) 思春期アドバイザー養成講座

(4) 断酒会・アルコールネットワーク

組織育成

(1) 家族会・リーダー研修会

① 家族会

○三重県精神障害者家族会連合会（三家連）

三家連は発足以来30年が過ぎようとしている。会員の高齢化や会員の確保などの問題を抱えながらも、地域においては、保健、医療、福祉等関係機関の連携強化に加え、精神保健ボランティアの支援を得て、精神障害者の社会復帰など様々な活動への取り組みがなされている。

センターは家族会の育成とともに、こうした関係領域拡大と連携の強化を目指して支援を行った。

三家連の運営に関する側面的支援はもとより、例年開催される三家連精神保健福祉大会の運営委員として、三家連理事会への参加、三家連役員と所長の懇親会など行なっている。

○精神障害者地域家族会

県内の地域家族会は現在、病院家族会５ヶ所、地域家族会11ヶ所、その他家族会（社会復帰関連施設等）３ヶ所が活動している。特に地域家族会については、全県下の拠点が網羅されている。しかし、各家族会とも役員の高齢化が進み、会の運営に悩みが生じてきている。

地域家族会への援助は、主に保健所において開催されている各家族会の定例総会への参加や、会独自で計画された研修への講師派遣等行なってきた。

	回（件）数	対象者延人数
家　族　会	11	875

② リーダー研修会

保健所を拠点とした地域家族会活動の推進を図るため、平成２年度から表記の研修を開催している。今までは地域家族会を主体としていた病院家族会、社会復帰関連施設職員も含め、精神障害者社会復帰体制の整備を促進することを目標に行なった。

	研修内容	参加者数および対象者
平成13年 9月20日（木） 13：30～15：30	講演　障害の理解と生活支援 ～当事者への関わり方と地域での活動のあり方・考え方～ 地域生活支援センター　ふわっと 施設長　　矢田朱美氏	78名 家族会会員、共同作業所所長、共同作業所指導員、社会復帰施設指導員等　保健所、市町村等関係職員

(2) 精神保健ボランティアの育成

県域の精神保健ボランティアの組織である「三重県精神保健ボランティア連絡協議会」と当センターの精神保健ボランティア教室修了生で組織している「三重てのひら」への運営に対し助言等の支援を行ってきた。

① 三重県精神保健ボランティア連絡協議会

平成元年から実施している当センターの精神保健ボランティア教室がモデルとなり、順次保健所・社会福祉協議会主催の教室が開催され各地に精神保健ボランティアグループが結成されてきた。

平成10年度に、7つの精神保健ボランティアグループ代表が集まり、相互の情報交換、資質の向上等のため、連絡協議会結成の合意をし、平成11年度に発足した。

○13年度活動内容

1　精神保健ボランティア全国のつどい in 三重

日時　平成14年1月26日（土）1月27日（日）

場所　宝生苑　阿児アリーナ

内容　講演　「これからの地域精神保健ボランティア活動について」

講師　三重県こころの医療センター

副院長　原田雅典

意識のバリアフリー劇（劇団「ダイコン一座」）

シンポジウム「共にかかわり支えあうために」

新潟県小千谷市保健福祉課　主　査　佐藤久美

ソーシャルハウス「さかい」　事務局長　中本明子

滋賀メンタル友の会　会　長　摂津育子

分科会

1　精神保健ボランティアのこころのあり方について

2　精神保健ボランティアと市町村との連携について

3　ボランティア連絡協議会の運営について

4　精神保健ボランティアの活動報告

2　全国大会実行委員会　15回

3　パンフレットの作成、配布

県内のボランティアグループ、当事者グループ、作業所　授産施設の紹介パンフレットを作成し、配布した。

② 三重てのひら

平成元年から始まった当センターの精神保健ボランティア教室の修了生により、平成4年度に結成され、県内各地で活動をしている。

精神保健ボランティア支援状況

	回　　数	延　べ　人　数
精神保健ボランティア連絡協議会	85	597
そ　　の　　他	9	59
合　　計	94	656

(3) 思春期アドバイザー養成講座

思春期講座が修了後も子どもたちの抱える問題はなかなか解決していかず家族の悩みは続いている。そのような時期を家族が共に乗り越えていこうと、OB会が結成された。家族も、同じ立場で一緒に考えられる場所や仲間を求めていた。そのような中から始まったのが、思春期OB会である。思春期の子どもを理解し、揺れ動く子ども達にどのように対応していくのか、どのようにしたらできるかを会員相互に相談しあっている。これらの知識や経験をいかし、地域で同じような悩みを持つ親に対して良き相談相手となっており、今後も、そのような家族に対して身近に相談にのれるように知識と技術をみにつける。

思春期アドバイザー養成講座の概要

●目　　的

思春期の子どもを取りまく状況は、学校・家庭だけでは対応できないほど深刻なものとなっており、社会全体の病理としてとらえていかなければ改善されないと思われる。

このような状況にある思春期の子どもをもつ家庭に対して、地域の中で良き支援者となれるようにする。

●内　　容

◎ 講　　義

日時：平成13年7月27日（金）13：30～17：00

講義：「不登校とのかかわりの中で」

東京シューレ（不登校を考える会）　奥地　圭子

日時：平成13年8月23日（木）13：30～16：00

講義：「子どものストレスを考える…不登校児の親へのかかわり…」

愛知産業大学　教授　橋元　慶男

◎ グループワーク

毎月第4木曜日　14：00～16：00

月 別 参 加 者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1月	2月	3月
人数	9	7	8	24	13	5	6	3	4	4	4

計11回　87名

(4) 断酒会・アルコールネットワーク

三重断酒新生会は昭和47年に結成され、アルコール依存症の自助組織として独自の活動を行なっている。6ブロック15支部で各々例会（月1～4回）を開催している。

アルコールネットワークは、断酒会、医療機関、相談機関等から成る連携組織で啓発活動などを行なっている。

この他県内では、AA(Alcoholics Anonymous)グループ活動も、津市で週1回開催されている。

家族支援としては、「家族例会」が本部・中勢・一志・松阪・上野・南勢ブロックで開催され、それぞれの地域に根ざした活動が行なわれている。

AC(AdultChild)サポートとしては、治療グループと自助グループの両要素をもつ「Wings」が津市で月1回開催し、体験交流や勉強会を行なっている。

センターでは、断酒会との共催による研修やセミナーの開催やアルコールネットワーク活動について必要に応じ、支援を行っている。

平成13年度の協力支援状況は次のとおりである。

	回（件）数	対象者延人数
断　酒　会	1	2

7. 精神障害者福祉推進事業

(1) 精神障害者就労相談

(2) 精神障害者自立援助

(3) 社会復帰関連施設支援

精神障害者福祉推進事業

精神保健の施策は、昭和62年及び平成５年の法律改正により、精神障害者の人権に配慮した適正な精神医療の確保や、社会復帰の促進を図るため様々な措置が講じられ、平成５年12月に障害者基本法が成立し精神障害者が基本法の対象として明確に位置づけられ、これまでの保健医療施策に加え、福祉施策の充実を図ることが求められることとなった。

さらに平成７年５月には精神障害者の福祉施策や地域精神保健福祉施策の充実を図ること等を目的に「精神保健法」から「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に改正され、精神障害者の自立と社会参加のための援助という福祉の要素が位置づけられた。こうした状況を踏まえ、こころの健康センターでは、精神障害者福祉推進事業として１）精神障害者就労相談、２）精神障害者自立支援、３）社会復帰関連施設支援の事業を行ってきた。

(1) 精神障害者就労相談

平成10年３月に開始した、就労前の実習体験（グループアルバイト）は２年以上経過した。センターの近くにあるホームセンター「ミスタージョン」の理解を得て、２名の当事者が雇用された。仕事内容は店側の配慮で比較的来客の少ない「工作機械・金物売り場」の商品補充作業であった。何百種類という品物の中から同じ品物を見つけ同一箇所へ掛ける作業が中心であった。ノルマではないが来客者から品物の場所を聞かれたり商品の専門的な用途を聞かれることもしばしばであった。最初の１年間はジョブコーチとしてセンター職員がバックについたが、その後はメンバーのみで参加した。他商品の陳列、値札貼り、金物の切り売りもできるようになってきていたが、平成13年７月に店側より経営母体が変わり雇用関係を解消したいとの申し入れがあり中断してしまった。メンバーはどこかで働きたいという思いは今でも募らせているため、就労に向けての支援が必要と考えられる。

就労の手引

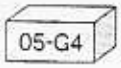
服　　装：来客に不快な印象を与えない服装
　　Gパンはだめ。襟付きの綿シャツ
　　ひげを剃り整髪をする
仕　　事：商品を売場に並べる
時　　給：700円（15日〆通帳に25日振込）
就労時間：毎週金曜日13：00～15：00
　　休憩はなし

アルバイトの手続

1．アルバイト雇用契約書
2．アルバイト採用報告書
3．通勤手当支給申請書
4．給与所得者の扶養控除申請書
5．身上書（履歴書）入院歴などの記入は必要なし。卒業学校、就労歴だけでよい。

実　務

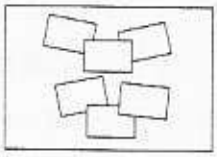
1．釘、ノコギリ等商品No.2のついた金物類の箱を探す
2．商品陳列棚へ移動



①小物の数字が近い物、同じ物を選ぶ
②バーコード表示の末尾と同じ商品を確認し展示。

＊客が誤った場所へ商品をかけてあることがありバーコード表札と同一か確認すること。

3．職員と出会ったら「お疲れさま、こんにちは」と挨拶する。
4．2階の事務所職員、店長らに挨拶し事務所入り口のタイムカードを



①自分のタイムカードを探す
②出社のボタンを押し
③タイムカードを上から切る
④青ランプでOK

この「手引き」の他に、「カラオケ操作の手引き」「当番の役割の手引き」「陶芸の手引き」がある。こういった手引書は、デイケアのメンバーにはもちろん異動する県職員にも役立ち、出来得る限り、作成しておくべきものである。

《精神障害者就労相談（グループアルバイト…仮称）実施要領》

●目　　的

精神障害者にとって現代社会の就労環境は厳しく、また就労できたとしても適応出来ずに失敗体験を繰り返すケースが多い。デイケアや作業所では適応しているケースでも、１人で社会に飛び込む体験はかなりの勇気と自己管理が必要であり、仲間と共に関係者が支え、安心して就労体験が出来る機会を設ける。

また、メンバーが実社会に触れる機会のみならず、このアルバイトを通し雇用主はじめ関係者の理解を得る機会とする。

●対　　象

在宅精神障害者で、デイケア、作業所に通所している者。

●実施内容

・毎週金曜日　13：00～15：00（状況に応じ16：00まで）

・原則として同一のデイケア、作業所に通うメンバー２人以上によるグループアルバイトの形式で実施。

・導入時他、必要に応じてジョブコーチとしてセンター職員等が指導する。

・アルバイト料は雇用主と協議する。

平成13年７月17日　現在

	回　　数	延　べ　人　数
障害者就労相談	15	15

(2)　精神障害者自立援助

県内の当事者会活動の活性化を図るため、当事者及び関係者を対象に研修会を開催した。

日　時	内　　容	参　加　者
平成14年 ３月16日(土) 13：30～15：00	講演「当事者グループのすすめかた」 講師　東京都精神障害者団体連合会 代表　小金澤　正治氏	当事者、精神保健ボランティア、 作業所指導員等関係職員 83人

平成４年度より毎週金曜日はデイケアメンバーにフリースペースとしてデイルームを開放している。当初は１、２名の参加であったが平成８年頃より利用者が増え当事者会へと発展してきた。

現在、当事者会は月１回定例会を開催しており、メンバーが主体的に活動できるよう情報提供、助言等を行っている。

フリースペース利用状況

回　数	延べ利用者数	平均参加者数	内　　容
46	120	2.6	カラオケ、将棋、雑談　等

当事者会（オレンジハートクラブ）支援状況

回　数	延べ利用者数	平均参加者数	内　　容
9	24	2.7	ミーティング、カラオケ、施設見学、食事会、戸外レクリエーション　等

(3)　社会復帰関連施設支援

平成13年度の支援状況は以下のとおりで運営委員会への出席、スーパーバイズ等を実施した。

	回　　数	延　べ　人　数
社会復帰関連施設支援	4	39

（再掲）

施　設　名	回　　数	延　べ　人　数
わかば共同作業所	1	8
夢の郷	2	29
計	3	37

8. ストレス対策事業

ストレス対策事業

ストレスを避けて通れない現代社会において、すべてのライフサイクルを通じてメンタルヘルスが重要課題となっているなか、社会的支援が急務となっている。

そこで県民ひとりひとりが不安や緊張を経験しながらも著しい不適応な状態に陥ることなく、心の健康を維持向上させ、また、適応障害、心的外傷後ストレス障害など境界域の心の病を持つ人々への社会的支援体制を確立するため、ストレス対策事業を実施する。

事業内容

(1)リラックス体験　(2)ストレス相談　(3)診療（ストレス関連疾患、来所ケースの中で相談の補助的手段として投薬治療の必要なケースに診療を行う）ーの３本柱である。

(1)　**リラックス体験**〈実施日時：火・金10～16時、場所：久居庁舎４階ストレスケア・ルーム、無料〉

ボデーソニック（リクライニングの椅子）に横になり、癒しの音楽の低重音がリラックスを導く中、α波の脳波をとりストレス解消のアドバイスを行う。

	平成11年９月～	平成12年度	平成13年度
対　象　者	170	171	368

(2)　**ストレス相談**〈実施日時：水10～16時、場所：久居庁舎４階ストレスケア・ルーム、無料〉

ストレス相談の流れ：ストレスケア・ダイヤル（059－255－0184）にて**予約 ➡ 面接、問診票記入 ➡ 心理テスト ➡ リラックス体験 ➡ 面接、助言** ＊ ストレス相談の内容により通所に切り替え専門の職員が相談に当たる。

	平成11年９月～	平成12年度	平成13年度
対　象　者	39	57	24

(3)　**診　療〈実施日時：随時、場所：こころの健康センター、診療は有料〉**

保健診療の出来る体制を開始する。ストレス相談の方以外の来所相談ケースにも対応を開始する。

	平成11年９月～	平成12年度	平成13年度
対　象　者	203	318	139

ストレス対策事業は平成11年に開始され、今年度は保健婦（11名）生保ワーカー（12）、教育委員会、社協、看護婦などの専門職種の参加が見られ、伊勢市、大安町、島ヶ原村などがグループでメンタルヘルス研修に利用されてた。また、大安町は独自でボディーソニック５台を設置し、身体とこころの健康づくりに取り組みを開始し、センターもこころの健康づくりの支援を行った。

この事業のセンターの最終目標は、職場や学校、地域にメンタルケアのできる指導者を養成することで

あり、地域でメンタルヘルス・ケアのできるネットワークへと構築していかねばならない時期にきていると考えている。

＊参考〈平成13年度ストレスケアルーム利用者の状況〉

性別

	人　数	計
男	158	389
女	231	

新規、再来、継続別件数

新　規	再　来	継　続	合　計
334	42	13	389

年齢別来所者数

人　数	20歳以下	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	70以上	不明	合計
名	9	70	68	96	58	53	24	11	389

管内別来所者数

	津　市	伊勢市	鈴鹿市	松阪市	久居市	四日市市	合　計
管　内	48	26	30	8	16	5	389
	桑名市	亀山市	尾鷲市	上野市	一志郡	桑名郡	
	24	1	9	3	4	6	
	安芸郡	三重郡	員弁郡	阿山郡	県外	不明	
	6	1	164	11	3	24	

9. 薬物相談ネットワーク事業

薬物相談ネットワーク事業

薬物乱用の広汎化、低年齢化、対応や支援の難しさなど、薬物問題をとりまく状況は非常に深刻化してきています。

薬物依存症の問題で困っている家族、関係者が薬物依存症について、正しい知識を持ち、回復につながる対応を学び、孤立した状態から解放されると共に、薬物依存症者自身の回復を動機づけることを目的に以下の事業を実施している。

(1) 薬物相談事業

電話相談　36件

来所相談　18件（実人員13人）

相談来所者の内訳

来所者の紹介経路		相談来所者		使用薬物	
保健所	3人	母のみ	8人	シンナー	2人
病院	1人	父のみ	1人	覚せい剤	9人
ダルク	7人	妻	1人	大麻＋覚せい剤＋精神安定剤	1人
警察	1人	知人	1人	覚せい剤＋ブロン錠剤	1人
知人	1人	両親	2人		

(2) 家族教室

実施回数　12回　「1クール6回で2クール」　参加延べ数　45名

「テーマ」

1回目	薬物依存とは	グループミーティング
2回目	薬物依存が周りの人に与える影響	〃
3回目	薬物依存が周りの人に与える影響	〃
4回目	家族そして自分自身について	〃
5回目	家族にとっての回復とは	〃
6回目	回復の道のりとセルフヘルプグループ	〃

担当者　皇学館大学講師　山野　尚美

自助グループ「ダルク、ナラノンメンバー」

こころの健康センター　安保　明子

(3) 関係機関職員研修

1）講演・フォーラム　参加者数　156名

テーマ　「回復は出会いから」

「第５次薬物乱用期の子供たち－今、私たちに出来ること」

講　師　　「横浜市立戸塚高校教諭　水谷　修先生」

２）基礎講座＜相談に応じる職員研修＞　参加者数　　45名

・テーマ「薬物依存からの回復」

・関係機関の紹介「警察、保護観察所、こころの医療センター、ナラノン、ダルク、保健所、福祉事務所、児童相談所、こころの健康センター」

・事例検討会

(4)　広報啓発

１）講師派遣

・鈴鹿保健福祉部管内民生委員研修会

・薬物乱用防止教育　　中学校

・薬物乱用防止決起集会　　２ヶ所

・薬物乱用防止教育指導者研修会　　１ヶ所

２）ポスター作成

「回復は出会いから」

(5)　協力組織育成

ナラノン東海地域委員会への出席

三重ダルクを支援する会への出席　　12回

ダルクへの支援

内容　　グループホーム運営に関すること

入所者の生活保護適用に関すること

ダルクフォーラムへの協力

10. こころのケアネットワークづくり事業

こころのケアネットワークづくり事業

三重県では、「健康とは何か」を追求し、生活の質の充実という大きな課題に向かって、「ヘルシーピープルみえ・21」が打ち出された。

この戦略のキーコンセプトは、「わくわく育ち、イキイキ暮らし、安らかに人生を全うする」というもので、「精神的に良好な状態」を中心課題にすえられた。

この事業の具体的展開を図るため、平成13年度より、センターに3ヵ年計画で、「こころのケアネットワークづくり事業」が重要事業をとして位置づけられ初年度は次の事業を行った。

1．13年度事業内容

1）こころのケア検討委員会の設置及び開催

・青年期こころのケア検討委員会　3回

・中壮年期こころのケア検討委員会　2回

2）こころのケア実態調査

・青年期こころのケア実態調査

・中壮年年期こころのケア実態調査

① 調査の概要

〈対象〉高校生：県立高校65校　2,730名

大学生：県内4年生大学　750名

学校職員：県立高校の職員　520名

県内4年生大学職員　180名

企業の労働者　8,414名

衛生管理者、労務管理者　1,140名

計　11,005名

〈内容〉

学生

プロフィール

生活背景

疲労度、ストレス、生き甲斐

健康状態

学校職員

プロフィール

学校職員からみた生徒の不適応の状況

生徒のこころの問題

学校のメンタルヘルス対策

今後のメンタルヘルス対策の推進に関すること

企業労働者

プロフィール

勤務状況等に関すること

自己の健康状況

健康管理に関する事項

企業の衛生管理者・労務管理者

企業プロフィール

ストレスに関する事項

職場に於けるメンタルヘルス対策の取り組み状況

〈調査期間〉　平成13年11月～12月

〈調査の集計〉

回収状況

高校生	回収数	2,379名	回収率	98.5%
大学生	回収数	385名	回収率	51.3%
高校大学の職員	回収数	563名	回収率	77.6%
企業の労働者	回収数	5,958名	回収率	70.8%
企業の労務管理者	回収数	199名	回収率	17.7%

② 調査結果

ア　高校生・大学生

青年期にある人の７～８割が毎日の生活に疲れを感じ、４割がストレスを感じている。

又、この世の中から消えてしまいたい（死んでしまいたい）と思ったことがある割合は、４割で、この中に、ストレスを感じている割合も高い。

４～５割が生き甲斐を持っている。

８～９割が人とのふれあいが楽しいと感じている。

悩みを相談できる人は友人の割合が最も高い。

イ　高校大学職員

学校職員の８割以上が、学校でこころの問題が増えてきていると感じ、９割は、生徒から相談を受けたことがある。と回答している。

又、最近の生徒の様子について・人間関係がうまく作れない・些細な不快な出来事ですぐ怒る生徒が増えていると感じている。

生徒から相談を受ける内容は、友達、親との関係やいじめなど、対人関係に起因する内容が主で、対応方法は、７割が話を聞くとなっている。

メンタルヘルス対策が実施されている学校が3割あり、内、2割は対策がうまくいっていると回答していた。

現在学校で取り組まれているメンタルヘルス対策は、カウンセリングルームの設置、相談窓口設置、カウンセラーの配置等である。

ウ　企業労働者

普段の仕事で体が疲れる労働者7割、こころが疲れると回答した人は7割である。

仕事や、職業生活で強い不安、悩み、ストレスがある人は6割で、その内容は、仕事の質、仕事の量、職場の人間関係が高くなっている。

現在の健康状態については、7割が健康であると回答している。

自覚症状の内容は肩、腕、首筋のこり、痛み、腰の痛み、視力低下が高かった。

エ　衛生管理者・職務管理者

職場でのストレスについて、7割以上が増えていると回答している。

5割の人が職場のメンタルヘルスに関することが問題になっていると感じている。

ストレスの要因は、「人員削減に関すること」「業務の質に関すること」「業務量に関すること」が多い。

職場から仕事を辞めたい、死にたい等、相談を受けたことがある者は4割を越え、職場内調整や、話を聞くという対応をとっているが、相談を受けて困ることは、専門知識がない、紹介できる機関がないということであった。

現在企業で取り組まれているメンタルヘルス対策は、復職対策、相談窓口の設置などで、5割近くの企業がメンタルヘルス対策に取り組んでいるが、うまくいっていると回答したのは2割であった。

こころのケアネットワークづくり事業要領

1．事業目的

近年、児童虐待、学校不適応、引きこもり、勤労者の自殺など各ライフサイクルにおいてさまざまなメンタル問題が発生しており早急な対応が求められている。特に青年期と中壮年期においてはその問題が社会に与える影響も大きく、ケアしていく体制が未整備である。

そこで青年期・中壮年期を中心にこれらのメンタル問題を早期に発見し、ケアしていく体制づくりを構築していく。

また、この事業を通じて県の健康づくり総合計画「ヘルシーピープルみえ・21」における中心課題であるこころの健康づくりの推進をはかる。

2．事業実施主体

三重県こころの健康センター

3．事業内容

① 青年期・中壮年期におけるこころのケア実施調査

② サポートネットワークシステム構築のための検討会

③ サポートネットワーク構築のための講演会

④ こころのケアネットワーク担い手養成講座の開催

⑤ こころのケアに関する広報啓発

4．年次計画

平成13年度　青年期・中壮年期におけるこころのケアネットワークシステム構築のための基盤作り

平成14年度　各県民局単位にてこころのケアネットワークシステムが構築できるようなサブネットワークの基盤作り

平成15年度　こころのケアネットワークシステムの構築

※　詳細は青年期メンタルヘルス対策調査結果報告書、中壮年期メンタルヘルス対策調査結果報告書参照

III. 資　　料　　編

三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤喬一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋薫 編	星和書店
4	アルコール症（J.フォート著）	大森正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島美都子 著	ミネルヴァ書房
8	岩波国語辞典	西尾実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子（J.A.Lジング著）	中野善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下格 著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉（厚生行政百問百答）	厚生省 監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析　1	小此木啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析　2	小此木啓吾 著	誠信書房
17	講座　家族精神医学　1	加藤正明 共編	弘文堂
18	講座　家族精神医学　2	加藤正明 共編	弘文堂
19	講座　家族精神医学　3	加藤正明 共編	弘文堂
20	講座　家族精神医学　4	加藤正明 共編	弘文堂
21	講座　日本の老人　1　老人の精神医学と心理学	金子仁郎 共編	垣内出版
22	講座　日本の老人　2　老人の福祉と社会保障	岡村重雄 共編	垣内出版
23	講座　日本の老人　3　老人と家族の社会学	那須宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村護郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者（R.D レイン著）	志貴春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省 監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本和雄 共著	日本文化科学社
29	児童の発達と行動	加藤正明 共訳	医学書院

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫著	医学書院
31	社会精神医学の実際　1	加藤伸勝編	医学書院
32	社会精神医学の実際　2	佐藤亮三編	医学書院
33	社会精神医学の実際　3	逸見武光編	医学書院
34	社会精神医学の実際　4	加藤伸勝編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ　6　小児のMBD	上村菊朗共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ　7　登校拒否症	若林真一郎著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ　8　小児のてんかん	福山幸夫著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ　13　小児の糖尿病	田中美郷著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ　14　自閉症	村田豊久著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ　15　小児の心身症	河野友信著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ　20　夜尿症	三好邦雄著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋共編	医学書院
44	事例検討と看護実戦	外口玉子編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子編	バオバブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省監修	中央法規出版
48	心理療法の実際	河合隼雄編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典		メディカルビュー
53	増補版　精神医学辞典	加藤正明共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫共編	医学書院
59	精神衛生のための100か条	中沢正夫著	創造出版

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科　MOOK　3　覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科　MOOK　4　境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科　MOOK　6　思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科　MOOK　8　老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー　I　精神療法の基礎	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー　II　精神分析の治療機序	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー　III　フロイトの治療技法論	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー　V　発達とライフサイクルの視点	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん治療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年　1（上）中高年健康管理学	旗野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年　1（下）中高年健康管理学	旗野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年　2　中高年女性学	旗野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年　3　収穫の世代	神井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年　4　老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版
89	日本の中高年　5　中高年にみる生活危機	本村汎共編	垣内出版

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
90	日本の中高年　6　病める老人を地域でみる	前田信雄　著	垣内出版
91	ニュー　セックス　セラピー	野末源一　訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上英二　編	講談社
93	方法としての事例検討	外口玉子　著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上和雄　共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木浩二　訳	誠信書房
96	ボウルビィ母子関係入門	作田勉　訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村恒郎　著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原健志郎　編	中央法規出版
99	森田正馬全集　1	森田正馬　著	白揚社
100	森田正馬全集　2	森田正馬　著	白揚社
101	森田正馬全集　3	森田正馬　著	白揚社
102	ユキの日記	笠原嘉　編	みすず書房
103	病むということ	江畑啓介　訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川中　共訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中淑彦　共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口玉子　編	バオバブ社
107	臨床てんかん学	和田豊治　著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川和夫　共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田晋　著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎俊久　編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅貴夫　編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏君士　著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川和夫　著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤伸勝　監訳	医学書院

63年度以降購入分

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
1	現代精神医学大系　1A　精神医学総論Ⅰ		中山書店
2	現代精神医学大系　1B1a　精神医学総論Ⅱa1		中山書店
3	現代精神医学大系　1B1b　精神医学総論Ⅱa2		中山書店
4	現代精神医学大系　1B2　精神医学総論Ⅱb		中山書店
5	現代精神医学大系　1C　精神医学総論Ⅲ		中山書店
6	現代精神医学大系　2A　精神疾患の成因Ⅰ		中山書店
7	現代精神医学大系　2B　精神疾患の成因Ⅱ		中山書店
8	現代精神医学大系　2C　精神疾患の成因Ⅲ		中山書店
9	現代精神医学大系　3A　精神症状学Ⅰ		中山書店
10	現代精神医学大系　3B　精神症状学Ⅱ		中山書店
11	現代精神医学大系　4A1　精神科診断学Ⅰa		中山書店
12	現代精神医学大系　4A2　精神科診断学Ⅰb		中山書店
13	現代精神医学大系　4B　精神科診断学Ⅱ		中山書店
14	現代精神医学大系　5A　精神科治療学Ⅰ		中山書店
15	現代精神医学大系　5B　精神科治療学Ⅱ		中山書店
16	現代精神医学大系　5C　精神科治療学Ⅲ		中山書店
17	現代精神医学大系　6A　精神症と心因反応Ⅰ		中山書店
18	現代精神医学大系　6B　精神症と心因反応Ⅱ		中山書店
19	現代精神医学大系　8　人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系　9A　躁うつ病Ⅰ		中山書店
21	現代精神医学大系　9B　躁うつ病Ⅱ		中山書店
22	現代精神医学大系　10A1　精神分裂病Ⅰa		中山書店
23	現代精神医学大系　10A2　精神分裂病Ⅰb		中山書店
24	現代精神医学大系　10B　精神分裂病Ⅱ		中山書店
25	現代精神医学大系　12　境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系　15A　薬物依存と中毒Ⅰ		中山書店
27	現代精神医学大系　15B　薬物依存と中毒Ⅱ		中山書店
28	現代精神医学大系　18　老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系　23A　社会精神医学と精神衛生Ⅰ		中山書店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
30	現代精神医学大系　23B　社会精神医学と精神衛生II		中山書店
31	現代精神医学大系　23C　社会精神医学と精神衛生III		中山書店
32	現代精神医学大系　24　司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系　25　文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門（正統）	懸田克躬・高橋義孝 訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝 訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝 他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬 他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝 他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小此木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小此木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三 他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小此木啓吾 訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・理想篇I	高橋義孝・生松敬三 他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・理想篇II	高橋義孝・生松敬三 他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレペリンの精神医学1巻　精神分裂病	西丸四方・四方甫夫 訳	みすず書房
47	クレペリンの精神医学2巻　躁うつ病とてんかん	西丸四方・四方甫夫 訳	みすず書房
48	クレペリンの精神医学3巻　心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり 訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人 他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理　1	笠原嘉 編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理　2	宮本忠雄 編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理　3	飯田真 編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理　4	木村敏 編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理　5	笠原嘉 編	弘文堂
56	精神遅滞児（者）の医療・教育・福祉	櫻井芳郎 他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1、子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3、発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7、発達の保障と教育		岩波書店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
60	分裂病の精神病理4	荻野恒一編	東京大学出版会
61	青年の精神病理　1	笠原嘉・清水將之・伊藤克彦編	弘文堂
62	青年の精神病理　2	小此木啓吾編	弘文堂
63	青年の精神病理　3	清水將之・村上靖彦編	弘文堂
64	講座　生活ストレスを考える　1．生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣内出版
65	講座　生活ストレスを考える　2．生活環境とストレス	山本和郎編	垣内出版
66	講座　生活ストレスを考える　3．家族生活とストレス	石原邦雄編	垣内出版
67	講座　生活ストレスを考える　4．職場集団にみるストレス	坂本弘編	垣内出版
68	講座　生活ストレスを考える　5．学校社会のストレス	安藤延男編	垣内出版
69	メラニークライン著作集1．子どもの心的発達	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
70	メラニークライン著作集3．愛、罪そして償い	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
71	メラニークライン著作集4．妄想的・分裂的世界	責任編訳・小此木啓吾・岩崎徹他	誠信書房
72	メラニークライン著作集6．児童分析の記録I	山上千鶴子訳	誠信書房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見　上	アンリ・エレンベルガー著 木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
75	無意識の発見　下	アンリ・エレンベルガー著 木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
76	新しい子ども学　3巻　1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
77	新しい子ども学　3巻　2育てる	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
78	新しい子ども学　3巻　3子どもとは	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
79	アンナ・フロイド著作集　1　児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集　2　自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集　3　家庭なき幼児たち・上	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集　4　家庭なき幼児たち・下	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集　5　児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集　6　児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集　7　ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集　8　ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集　9　児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集　10　児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学　2　パーソナリテイ		岩波書店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
90	異常心理学講座4巻　1　学派と方法	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
91	異常心理学講座　3　人間の生涯と心理	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座　4　神経症と精神病1	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座　5　神経症と精神病2	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集　1精神病理学研究	井村恒郎著	みすず書房
95	井村恒郎著作集　2脳病理学・神経症	井村恒郎著	みすず書房
96	井村恒郎著作集　3分裂病・家族の研究	井村恒郎著	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・臺弘監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎著	金剛出版
99	叢書・精神の科学　1巻精神の幾何学	安永浩著	岩波書店
100	叢書・精神の科学　2巻シンファンの病い	小出浩之著	岩波書店
101	叢書・精神の科学　4治療の場からみた分裂病	坂本暢典著	岩波書店
102	叢書・精神の科学　5正気の発見	内沼幸雄著	岩波書店
103	叢書・精神の科学　6心身症と心身医学	成田善弘著	岩波書店
104	叢書・精神の科学　7意識障害の人間学	河合逸雄著	岩波書店
105	叢書・精神の科学　8境界事象と精神医学	鈴木茂著	岩波書店
106	叢書・精神の科学　10精神と身体	遠藤みどり著	岩波書店
107	叢書・精神の科学　11脳と言語	野上芳美著	岩波書店
108	叢書・精神の科学　12貧困の精神病理	大平健著	岩波書店
109	叢書・精神の科学　13「非行」が語る親子関係	佐々木譲・石附敦著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治編	誠信書房
112	生きること　かかわること	村上英治監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論（フェァベーン）	山口泰司訳	文化書房博文社
114	臨床的対象関係論（フェァベーン）	山口泰司・原田千恵子訳	文化書房博文社
115	性的倒錯（メダルト・ボス著）	村上仁・吉田和夫訳	みすず書房
116	性の逸脱（ストー著）	山口泰司訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウイニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剥奪	ウイニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
119	摘画による心の診断	岩井寛著	日本文化科学社

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
120	家族療法（ジェィ・ヘイリィ著）	佐藤悦子訳	川島書店
121	夫婦家族療法Ⅰ（Dグリック D.Rケスラー著）	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前田重治著	慶応通信
124	コミュニテイ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巌・荒井元傳編	ミネルヴァ書房
126	日常性の精神医学（ヴァン・デン・ベルグ著）	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的面接（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋條治	岩崎学術出版社
131	身体の心理学（P・シルダー著）	稲永和豊監修	星和書店
132	岩波　心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄盗訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでもの精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析1　母親の深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
142	日本人の深層分析2　父親の深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
143	日本人の深層分析3　エロスの深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
144	日本人の深層分析4　攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
145	日本人の深層分析5　夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
146	日本人の深層分析6　創造性の深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
147	日本人の深層分析7　病める心の深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
148	日本人の深層分析9　子どもの深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10　青年期の深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
150	日本人の深層分析11　老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
151	思春期の対象関係論	牛島定信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室伏君士	金剛出版
153	薬物依存	加藤雄司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼田源四郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室伏君士 編	金剛出版
156	E．ミンコフスキー　生きられる時間　1	中江育生・清水誠 訳	みすず書房
157	E．ミンコフスキー　生きられる時間　2	中江育生・清水誠・大橋博司 訳	みすず書房
158	E．ミンコフスキー　精神分裂病	村上仁 訳	みすず書房
159	異常心理学講座　第9巻	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・木村敏 責任編集	みすず書房
160	E．クレペリン〈精神医学〉2　躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫 訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子 訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子 訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子 訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修 加藤伸勝	医学書院
165	PS．Poweres，RC．Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳 保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R．K．コーニッ編　ハンドブックグループワーク	馬場禮子 監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園昌久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司 編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛 訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会　発売：星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎 監修	日本集団精神療法学会 発売：星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・式場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー　裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D．W．ウィニコット　子どもと家庭	牛島定信 監訳	誠信書房
174	医心理学	原田憲一・小片寛・湯沢千尋・巽信夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子 編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンスインターナショナル
178	生活と福祉　別冊事例集 アルコール依存症および精神障害特集		全国社会福祉協議会

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
179	パトグラフィ双書3　宮沢賢治	福島　章	金剛出版
180	パトグラフィ双書6　ドフトエフスキー	荻野恒一	〃
181	パトグラフィ双書8　ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	パトグラフィ双書9　志賀直哉	鹿野達男	〃
183	パトグラフィ双書10　川端康成	稲村博	〃
184	パトグラフィ双書12　高村光太郎	野沢静夫	〃
185	精神科MOOK　2　家族精神医学	編集企画　西園昌久	金原出版
186	〃　5　アルコール関連障害	〃　加藤正明	〃
187	〃　9　精神分裂病の治療と予後	〃　山下格	〃
188	〃　11　身体疾患と精神障害	〃　原田憲一	〃
189	〃　12　対人恐怖症	〃　高橋徹	〃
190	〃　13　躁うつ病の治療と予後	〃　吏井啓介	〃
191	〃　14　青少年の社会病理	〃　藤原豪	〃
192	〃　15　精神療法の実際	〃　吉松和哉	〃
193	〃　16　自殺	〃　春原千秋	〃
194	〃　17　法と精神医療	〃　逸見武光	〃
195	〃　18　家庭と学校の精神衛生	〃　山田通夫	〃
196	〃　19　森田療法ー理論と実際	〃　大原健士郎	〃
197	〃　20　精神科救急医療	〃　山崎敏雄	〃
198	〃　21　睡眠の病態	〃　菱川泰夫	〃
199	ヤスパース精神病理学研究	藤森英之訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園昌久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・本城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆 編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川孫一郎	〃
207	C.Mアンダーソン・D.Jレイス・G.Eハガティ 著 分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子 監訳	〃
208	C.Mアンダーソン・D.Jレイス・G.Eハガティ 著 分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子 監訳	〃

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
209	精神分裂治療の展開	西園昌久	金剛出版
210	DSM-Ⅲ-R　精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤縄昭	医学書院
211	内因性精神病	吉永五郎	医学書院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・島弘嗣 共訳	みすず書房
213	精神保健実践講座　①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正 編	中央法規出版
214	〃　②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南雲与志郎 編	〃
215	〃　③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄 編	〃
216	〃　④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基 編	〃
217	〃　⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明監・村田信男・藤井克徳 編	〃
218	〃　⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男 編	〃
219	〃　⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正 編	〃
220	〃　⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久 編	〃
221	〃　⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男 編	〃
222	〃　⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉 編	〃
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	〃
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12　現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之 他編	有斐閣
226	精神科MOOK　26　精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金原出版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根本博司 編集	中央法規
228	分裂病を生きる	安斎三郎 編著	日本評論社
229	臨床ケースワーク	武田建　荒川義子	川島書店
230	臨床描画研究 Ⅰ　描画テストの読み方	家族画研究会編	金剛出版
231	臨床描画研究 Ⅱ　家族画による診断と治療	〃	金剛出版
232	臨床描画研究 Ⅲ　思春期、青年期の病理と描画	〃	金剛出版
233	臨床描画研究 Ⅳ　描画の臨床的活用	〃	金剛出版
234	臨床描画研究 Ⅴ　イメージと臨床	〃	金剛出版
235	臨床描画研究Annex 1家族イメージとその投影	〃	金剛出版
236	〃　2私の表現病理学	〃	金剛出版
237	〃　3描画を読むための理論背景	〃	金剛出版
238	治療構造論	岩崎徹也	岩崎学術出版社

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
239	精神障害者福祉	田村健二・坪上宏・浜田晋・岡上和雄	相川書房
240	過食の病理と治療	下坂幸三編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である　H.S サリヴァン著	中井久夫・宮崎隆吉・高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出　J.レフ C.ヴォーン著	三野善央・牛島定信 訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子 監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一 監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際　I	大原健士郎・石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際　II	大原健士郎・石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開　ジョンヘイリー著	高石昇・横田恵子 訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水將之・北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫・小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2　登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	土居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望（青年期）	鑪幹八郎・山本力・宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男・松為信男・野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保紘章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保紘章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ　GR.パターソン	大渕憲一・春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫・上田敏	医学書院
261	増補　精神発達と精神病理	北田穣之助・馬場謙一・下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田眞	医学書院
264	医学モデルを超えて　E.G ミシュラー著	尾崎新・三宅由子・丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4　強迫神経症	遠藤みどり・稲浪正充	みすず書房
267	青年期　美と苦悩	大東祥孝・松本雅彦・新宮一成・山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談		財日本公衆衛生協会

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
269	人は場をつなぐケア	外口玉子	医学書院
270	精神分裂病研究の進歩	藤縄昭	星和書店
271	「家族」と治療する	石川元	未来社
272	初期分裂病	中安信夫	星和書店
273	自己愛と境界例　J.F マスターソン著	富山幸佑・尾崎新 訳	星和書店
274	入院集団精神療法	山口隆・小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術　L.S.グリックマン著	荒木志朗・柴田史朗・西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高木四郎	慶応通信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木時雄	弘文堂
278	新版　精神衛生	小杉正太郎 編著	川島書店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明・精神衛生普及会 編	保健同人社
280	メンタルヘルス	加藤正明	創元社
281	ライフサイクル精神医学	西園昌久	医学書院
282	コーフト自己心理学セミナー　1　ミリアム・エルソン編	伊藤洸 監訳	金剛出発
283	遊びリテーション	竹内孝仁・稲川利光 三好春樹・村上重紀	医学書院
284	青年期の精神科臨床	清水將之	金剛出版
285	ブロイラー精神医学総論	切替辰哉	中央洋書出版
286	生涯発達学　R.Mラーナー　N.Aブッシュ　ロスナガール編	上田礼子 訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一 編集 横浜いのちの電話 調査研究部 編	川島書店
288	地図は現地ではない	中沢正夫	萌文社
289	岩波講座　子どもの発達と教育4　幼年期発達段階と教育1		岩波書店
290	精神医学の臨床研究　サリヴァン	中井久夫・山口直彦・松川周吾 訳	みすず書房
291	治療のダイナミックス	轟俊一・渡辺登	岩波書店
292	心理療法の諸原則　上　I.B ワイナー著	秋谷たつ子・小川俊樹・中村伸一	星和書店
293	心理療法の諸原則　下　I.B ワイナー著	秋谷たつ子・小川俊樹・中村伸一	星和書店
294	錯覚と脱錯覚	北山修	岩崎学術出版
295	サイコセラピー練習帳	丸田俊彦	岩崎学術出版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博・林義子・斉藤友紀雄	新曜社
297	分裂病の精神病理　16	上居健郎	東京大学出版社
298	森田式精神健康法	長谷川洋三	三笠書房

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
299	一般医のための森田療法	樋口正元	太陽出版
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本　収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優訳	金剛出版
304	無意識1　無意識へのプロレゴーメナ	アンリ・エー編・大橋博司監訳	金剛出版
305	無意識2　無意識と言語	アンリ・エー編・大橋博司監訳	金剛出版
306	無意識3　神経学と無意識	アンリ・エー編・大橋博司監訳	金剛出版
307	無意識4　無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編・大橋博司監訳	金剛出版
308	無意識5　無意識と社会学、哲学への影響	アンリ・エー編・大橋博司監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録　ダニエル.パウル　シュレーバー著	渡辺哲夫訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田晋	思索社
311	分裂病と他者	木村敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田専	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち　シンシア.R.フェファー	高橋祥友訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池田由子	弘文堂
315	妻が危ない	池田由子	弘文堂
316	心理療法論考	河合隼雄	新曜社
317	老いのソウロロギー（魂学）	山中康裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田・増井・菊本訳	星和書店
319	老人虐待	金子善彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田一民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘・八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上田基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	島田照三・森田啓吾・横山桂子著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑨　乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾・渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ヶ瀬康子・十古林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ヶ瀬康子・仲村優一・北川隆吉編	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田哲雄著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子　杉浦	ミネルヴァ書房

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン 著	実務教育出版
330	逆転移 1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外来精神医学から	笠原嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原浩 著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二 監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川義博 著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスターソン 著 富山幸佑・尾崎新 著	星和書店
337	小児精神医学	新井清二郎・長畑正道 他著	中山書店
338	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウィング　B・モリス 編 高木隆郎 監訳	岩崎学術出版
341	異常心理学講座⑥	土居健郎・笠原嘉 宮本忠雄・木村敏 責任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集　1　分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
343	〃　2　治療	〃	〃
344	〃　3　社会・文化	〃	〃
345	〃　4　治療と治療関係	〃	〃
346	〃　5　病者と社会	〃	〃
347	〃　6　個人とその家族	〃	〃
348	〃　別巻1　中井久夫共著論文集	山中康裕 編	〃
349	〃　別巻2　H・NAKAI 風景構成法	山口直彦 編	〃
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫 編著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康　①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也・小此木啓吾・武山専 監修	東海大学出版会
352	〃　②企業と中高年	〃	〃
353	〃　③企業と家族	〃	〃
354	〃　④企業と転勤	〃	〃
355	〃　⑤個人と性格	〃	〃
356	安永治著作集　1 ファントム空間論	安永治	金剛出版
357	〃　2 ファントム空間論の発展	〃	〃
358	〃　3 方法論と臨床概念	〃	〃

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
359	精神科リハビリテーションの実際　1	F・N・ワッツ　D・H・ベネット編 福島　裕監訳	岩崎学術出版社
360	精神科リハビリテーションの実際　2	F・N・ワッツ　D・H・ベネット編 福島　裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例　私の治療	融　道男　編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷中輝雄　編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中沢正夫	萌文社
365	心理劇とその世界	増野肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増野肇	金剛出版
367	異常心理学講座　第十巻　文化・社会の病理	土居健郎他	みすず書房
368	気分変調症	S・Wバートン　H・Sアキスアル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦・河合逸雄 他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中沢たえ子　著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4　職場の病	河野友信　編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中沢正夫	萌文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会 田中英樹他	萌文社
374	精神保健マニュアル	吉川武彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩　1991　Vo2　No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	〃　1992　Vo3　No1	〃	〃
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授還暦記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口隆　中川賢幸　編	星和書店
379	臨床心理学体系　①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄・福島章 他編集	金子書房
380	〃　②パーソナリティ	小川捷之・託摩武俊 他編集	〃
381	〃　③ライフサイクル	小川捷之・斉藤久美子 他編集	〃
382	地域精神保健活動の実際	吉川武彦　編	金剛出版
383	安永浩著作集　症状論と精神療法	安永浩	〃
384	精神保健福祉の展開	岡上和雄　編	相川書房
385	臨床心理学大系4　家族と社会	岡堂哲雄・鑪幹八郎・馬場禮子 編集	金子書房
386	〃　5　人格の理解[1]	安香宏・田中富士夫・福島章 編集	〃
387	〃　6　〃　[2]	村瀬孝雄・大塚義孝・安香宏 編集	〃
388	〃　7　心理療法[1]	小此木啓吾・成瀬悟策・福島章 編集	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
389	臨床心理学大系8　心理療法②	上里一郎・鑪幹八郎・前田重治 編集	金子書房
390	〃　9　〃　③	河合隼雄・水島恵一・村瀬孝雄 編集	〃
391	〃　10　適応障害の心理臨床	安井健三・小川捷之・安香宏 編集	〃
392	〃　11　精神障害の心理臨床	福島章・村瀬孝雄・山中康裕 編集	〃
393	シリーズ精神科症例集①　精神分裂病Ⅰ ―精神病理―	木村　敏 責任編集	中山書店
394	分裂病の精神病理と治療②	湯浅修一 編	星和書店
395	〃　③	中井久夫	〃
396	リバーマン実践的精神科リハビリテーション	ポール・リバーマン 安西信雄・池淵恵美 監訳	創造出版
397	メンタルヘルスシリーズ　サラリーマン・アパシー	延島信也 編	同朋舎
398	〃　働く女性のメンタルヘルス	馬場房子 編	〃
399	転換期に立つ精神病院	ゆうゆ編集部・氏家憲章	萌文社
400	狂気の社会史	ロイ・ポーター著　目羅公和 訳	法政大学出版局
401	こころの病いと家族のこころ	滝沢武久	中央法規出版
402	老年性精神疾患	エミール・クレペリン 著 伊達徹 訳	みすず書房
403	河合隼雄著作集　5　昔話の世界	河合隼雄	岩波書店
404	〃　6　子どもの宇宙	〃	〃
405	〃　13　生きることと死ぬこと	〃	〃
406	地域精神保健実践シリーズ②　保健デイケア	全国精神保健相談員会編 田中英樹 ほか著	萌文社
407	慢性疾患と家族	フロマワルシュ/キャロル・M・アンダーソン編 野中猛・白石弘巳 監訳	金剛出版
408	精神科ディケアマニュアル	宮田勝	〃
409	脳障害者の心理療法	小山充道	北海道大学図書刊行会
410	憑作と精神病	高畑直彦・七田博文・内潟一郎	〃
411	児童虐待（危機介入編）	斉藤学	金剛出版
412	これからの地域保健	厚生省健康政策局計画課監修	中央法規出版
413	子どもの虐待防止	児童虐待防止制度研究会編	朱鷺書房
414	老いの心と臨床	竹中星郎	診療新社
415	Alcoholism : Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
416	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
417	Mental Health in the Elderly	H.Hafner・G.Moschel・N.Sartorius	Springer-Verlag
418	Stress testing Edition　3	F.A.Davis.	M.H.ELLESTAD

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
419	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLGHT
420	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS
421	私の分裂病観	中沢洋一	金剛出版
422	地域精神保健実践マニュアル	吉川武彦・竹島正	金剛出版
423	精神分裂病の心理社会治療	藤縄昭・高井昭裕 編	金剛出版
424	力動指向的芸術療法	マーガレット・ナウムブルグ 著 中井久夫監修・内藤あかね 訳	金剛出版
425	職場のメンタルヘルス	加藤正明・精神衛生普及会 編	保健同人社
426	1995　長寿社会行政の展望	政府関係庁省	労働行政資料調査会
427	精神分裂病者の責任能力	西山詮	振興医学出版社
428	精神医学を築いた人びと上・下	松下正明	ワールドプランニング
429	病いの語り	アーサー・クライマン	誠信書房
430	災害ストレスと心のケア	荒木　憲一・川崎ナヲミ 長岡興樹・中根允文	医療薬出版
431	逆転移1．2．3	ハロルド・F・サールズ	みすず書房
432	精神障害者の地域福祉	日本社会事業大学をかこむ地域連絡会 全国精神障害者家族会連合会	相川書房
433	誰にもわかる分裂病とそのケア	ジョン・F・ソーントン メアリーV・シーマン 編著	中央法規
434	分裂病の精神病理と治療1～5	吉松和也・湯浅修一・中井久夫 飯田眞・永田俊彦	星和書店
435	分裂病症状をめぐって	村上靖彦	星和書店
436	続　精神医学を築いた人びと上・下	松下正明	ワールドプランニング
437	ケースマネージメント入門	デイビットP・マクスリ著	中央法規
438	精神障害者地域生活支援センターの実際	全国精神障害者社会復帰施設協会	中央出版
439	心的外傷と回復	ジュディス・L・ハーマン	みすず書房
440	精神保健リハビリテーション	C.ヒューム・I.ブレン	岩崎学術出版
441	セルフヘルプ・グループ	アルフレッド・カッツ	岩崎学術出版
442	行動療法2	山上敏子	岩崎学術出版
443	虐待を受けた子どものプレイセラピー	ギル	誠信書房
444	子どもと家族への援助	村瀬代子	金剛出版
445	分裂病の精神病理と治療8	中安信夫	星和書店
446	内観療法	川原隆造	新興医学出版
447	薬物依存	加藤伸勝	新興医学出版
448	ストレス教室	山本晴義	新興医学出版

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
449	依存症 ―35人の物語	なだいなだ	中央法規出版
450	DSM －Ⅳ　精神疾患の分類と診断の手引き	高橋三郎・大野　裕・染矢俊幸 訳	医学書院
451	ICD－10 精神および行動の障害臨床記述と診断ガイドライン	融道男・中根允文・小見山実 監訳	医学書院
452	精神分裂病　臨床と病理1	松本雅彦 編	医学書院
453	治療薬マニュアル	高久史麿・鴨下重彦 監修	医学書院
454	精神医学外伝	クリスティアン・ミュラー 著	星和書店
455	精神医学百年史	岡　不二太郎 訳編	創造出版
456	これからの精神医療と福祉		
457	精神科リハビリテーション実践ガイド	H・Y・エクダヴィ　A・M・コニング 著	星和書店
458	芸術療法　全2巻	中井久夫・山中康裕 他監修	岩崎学術出版社
459	トラウマの臨床心理学	西澤　哲	金剛出版
460	精神医学レビュー　9　思春期の精神障害―今日的問題―	西園昌久 編集	ライフ・サイエンス
461	〃　11　ヒポコンドリー（心気）	高橋　徹 編集	〃
462	〃　12　精神分裂病の再発	太田龍朗 編集	〃
463	〃　14　OCD	成田善弘 編集	〃
464	〃　15　精神分裂病者のリハビリテーション	蜂矢英彦 編集	〃
465	〃　18　精神科治療における家族	下坂幸三 編集	〃
466	〃　24　精神障害の疫学	大塚俊男 編集	〃
467	〃　30　精神疾患の一次予防	岡崎祐士 編集	〃
468	〃　別巻　21世紀に向けて精神分裂病を考える	融道男・大森健一 編集	〃
469	精神保健福祉士養成セミナー　第1巻	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会	へるす出版
470	〃　第2巻	〃	〃
471	〃　第3巻	〃	〃
472	〃　第4巻	〃	〃
473	〃　第5巻	〃	〃
474	〃　第6巻	〃	〃
475	〃　第7巻	〃	〃
476	〃　第8巻	〃	〃
477	分裂病の薬がわかる本	八木剛平 著	全家連
478	精神病治療の開発思想史	八木剛平 著	星和書店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
479	比較精神医学	内沼幸雄他訳	星和書店
480	クオリティーオブライフ評価尺度	宮田量治他訳	星和書店
481	分裂病のファミリーワーク	三野善央他訳	星和書店
482	地域診断のすすめ方	水嶋春朔著	医学書院
483	健康福祉の活動モデル	新井宏明著	医学書院
484	健康の正策科学	新井宏明他編	医学書院
485	地域づくり型保健活動のすすめ	岩永俊博著	医学書院
486	母子と家族への援助	吉田敬子著	金剛出版
487	講座心理療法　第1巻	河合隼雄著	岩波書店
488	〃　第2巻	〃	〃
489	〃　第3巻	〃	〃
490	〃　第4巻	〃	〃
491	〃　第7巻	〃	〃
492	「けーたい・ネット」人間の精神分析	小此木啓吾著	飛鳥新社
493	我が国の精神保健福祉　H12	精神保健福祉研究会	厚健出版
494	実践職場のメンタルヘルス	高野良英著	岩崎学術出版
495	声と身体の語らい	豊永武盛著	金剛出版
496	文化精神医学序説	酒井明夫他編	金剛出版
497	多重人格性障害	安克昌他訳	岩崎学術出版
498	精神保健福祉関係法令通知集	精神保健福祉研究会	ぎょうせい
499	精神障害と社会復帰のリハビリテーション		
500	全国社会資源名簿　1999年版	精神障害者社会復帰促進センター	全家連
501	モノグラフNo.23 医療機関における家族支援プログラム	全家連保健福祉研究所	〃
502	モノグラフNo.26 全国統計から見た日本の精神障害者の現状	〃	〃
503	モノグラフNo.27 地域生活本人の社会参加等に対する意識と実態98	〃	〃
504	モノグラフNo.28 専門職による家族会支援の実態と今後の課題	〃	〃
505	臨床精神医学講座7　人格障害	松下正明	中山書店
506	臨床精神医学講座8　薬物・アルコール関連障害	松下正明	中山書店
507	臨床精神医学講座19　司法精神医学・精神鑑定	松下正明	中山書店
508	健康日本21推進ガイドライン	多田羅浩三	ぎょうせい

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
509	ケアマネージメント実践のコツ	野　中　　猛	筒井書房
510	図説ケアマネージメント	野　中　　猛	中央法規
511	職場のメンタルヘルスケア　改訂2版	白　倉　克　之	南山堂
512	摂食障害の家族心理教育	後　藤　雅　博	金剛出版

〈定期刊行物〉

精神医学	医学書院
日本社会精神医学会	星和書店
アルコール医療研究	〃
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャル　ワーク研究	相川書房
季刊精神療法	金剛出版
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論(Vol.32 №1～4，Vol.33 №1～4)	心理学評論刊行会
心理臨床	星和書店
日本精神病院協会雑誌	日本精神病院協会
臨床精神医学	国際医書出版
精神障害と社会復帰	やどかり出版
公衆衛生	医学書院
季刊ゆうゆう	萌文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
JDジャーナル	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会
アディクションと家族	全国精神障害者家族会連合会
季刊「REVIEW」　36号・37号・38号・39号	財全国精神障害者家族会連合会
精神科治療学	星和書店

〈ビデオテープ〉

マイクロカウンセリングⅠ　基本的かかわり技法　前編

〃　Ⅱ　〃　後編

老人ボケを防ぐには

社会人としての言葉使いの基本

作業療法　生活を拡げる治療と援助

老化と飲酒

アルコールと循環器

肝臓とアルコール代謝

あと一杯が飲めるか

上越市つくしの里の実践から

　　～地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する～

こころの病をかかえて ― 精神障害者は今

病院を出て街で働きたい　報道特集（1987年）

君は空の青さを知っているか ― 精神障害者が地域で生きていくために

今ここにいきる ― 精神障害者とともに

災害と心のケア

ひとりぼっちをなくそう ― 精神障害者本人の会

そよ風はどこにでも　～地域精神保健の実際～

　第一巻：いつでも　どこでも　だれにでも

　第二巻：くらす　はたらく　つどう

家族のための分裂病講座

　～正しい知識は回復への道～

　～ゆっくり治療し、再発を防ごう～

　～知っておきたい薬の知識～

あちこたねえ

　～精神障害者の地域生活支援～

ケースの心をとらえる面接

　～第１巻：面接の基本～

　～第２巻：面接技術の向上をめざして～

未成年者にアルコールなんかいらない

おかえり

ひらく　かける　つなぐ　～精神保健ボランティア～

　第１巻：いっしょにいこうよ

　第２巻：スタンバイミー

生きる力を創る　～SST の理論の役割～

　〃　　～SST の基本的技術～

　〃　　～SST の実際～

リラクゼーションビデオ「心のケアシリーズ」３本セット

体感振動のための音楽集　GES －11998 ～12002

ビデオ「精神保健福祉啓発劇」

精神保健福祉ビデオシリーズ１　精神障害をもつ人への理解

精神保健福祉ビデオシリーズ４　精神障害をもつ人のケアマネジメント

精神保健福祉ビデオシリーズ５　ノーマライゼーション

自立生活技能（SILS）プログラム「導入」と「ビデオを用いた質疑応答」

自立生活技能（SILS）プログラム「ロールプレイ」と「社会資源管理」

自立生活技能（SILS）プログラム「派生する問題」「実地練習」と「宿題」

薬物依存～孤独そして絶望からの脱出～

アルコール依存症への道１　女性のライフスタイルとアルコール

アルコール依存症への道２　あなたのお酒の飲み方は大丈夫？

アルコール依存症への道３　「共依存症」アルコール依存症とその家族

アルコール依存症への道４　アルコール依存症快復への道

未成年者とアルコール

お酒と人生　～飲も方、酔い方、楽しみ方～

お年寄りとアルコールの対策　アルコール依存症は病気です

お年寄りとお酒のつき合い方

酒飲み上手は生き上手

助けを求めない人をどう援助するか１　否認の心理とイネイブリング

助けを求めない人をどう援助するか２　上手な介入の実際

新版　タバコの害　北沢杏子レポート

新版　覚醒剤の害　北沢杏子レポート

新版　シンナーの害　北沢杏子レポート

精神障害を考える　～精神の病とは何か～

あなたの心元気ですか！　～高校生のこころの健康を考えるためのビデオ～

人は薬　～痴呆性老人と介護のコツ～

ロールシャッハテスト　～心のなぞに迫る投映技法～

〈精神保衛啓発用パネル〉

Ⅰ　こころの健康づくりシリーズ（７枚）

こころの健康とは

こころの病気にかかる人はどれくらい？

こころとからだ

ライフサイクルと心の病

こころの問題はどこへ相談すればいいの？

こころの健康づくり

生活環境とストレス

Ⅱ　社会復帰シリーズ（７枚）

社会復帰のための４要素

共同作業所とは

ディケアとは　　家族会活動

共に生きる社会

社会復帰のための社会資源－1．制度－

〃　　－2．施設と活動－

Ⅲ　（ライフサイクル）思春期シリーズ（5枚）

思春期のこころ　　思春期のからだ

親ばなれ　　子ばなれ

思春期の心の病のサイン

Ⅳ　（ライフサイクル）老年期シリーズ（10枚）

老年期の心と体の特徴　　老年期の心の病（精神障害）

痴呆とは①　　痴呆とは②

仮性痴呆　　痴呆の予防

痴呆の介護①　　痴呆の介護②

痴呆はどうして起こる　　健やかなる老後

〈寄贈本〉

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	シンナー乱用の治療と回復	小沼杏坪著	㈲ヘルスワーク協会
2	ドラッグ世代	水谷修	太陽企画出版
3	お酒ってなんだろう	今成知美	岩崎書店
4	タバコってなんだろう	小沢杏子	岩崎書店
5	ストップ・ザ「たばこ・酒・薬物乱用」	有田幸男編著	東峰書房
6	依存症（35人の物語）	なだいなだ・吉岡隆・徳永雅子編	中央法規
7	よくわかる覚せい剤問題一問一答	関紳一監修	合同出版
8	中高生の薬物汚染	水谷・原田・関・吉岡・近藤・森野他著	健康双書
9	薬物から家族を守る	小森榮	三一書房
10	さらば、哀しみのドラッグ	水谷修	高文研
11	薬物依存症とは何か	東京ダルク編集委員会編	東京ダルク
12	親と教師のための覚せい剤問題入門	子どもと教育・文化を守る埼玉県民会議編	合同出版
13	援助者のためのアルコール・薬物依存症 Q&A	吉岡隆編	中央法規
14	ドラッグ（薬物）ってなんだろう	水澤都加佐	岩崎書店
15	薬物乱用と家族	斉藤学著	㈲NCスクール協会

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
16	依存性薬物シリーズ1　ストップ　ドリンキング	丸　山　勝　也　監修	日本教育新聞社
17	〃　　2　シャットアウト　スモーキング	浅　野　牧　茂　監修	〃
18	〃　　3　ドン・ドゥ・ドラッグ	小沼杏坪・小田晶彦・原田幸男 監修	〃
19	青少年のための自殺予防マニュアル	高　橋　祥　友　著	金　剛　出　版
20	ドラッグ社会への挑戦	小　森　　榮　著	丸善ライブラリー